

第七十三回帝國議會
衆議院

恩給金庫法案外一件委員會會議錄(速記)第八回

付託議案
恩給金庫法案(政府提出)
恩給法中改正法律案(政府提出)
庶民金庫法案(政府提出)
無盡業法中改正法律案(政府提出)

會議

昭和十三年三月一日(火曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田房之助君

理事最上 政三君 理事小笠原八十美君

理事坂東幸太郎君 理事江藤源九郎君

理事森 幸太郎君

高橋 義次君

村瀬 武男君

庄 普太郎君

池田七郎兵衛君

林 路一君

塚本 重藏君

出席政府委員左ノ如シ

内閣恩給局長 高木 三郎君

法制局長官 船田 中君

陸軍政務次官 加藤久米四郎君

海軍參與官 岸田 正記君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

恩給金庫法案(政府提出)

恩給法中改正法律案(政府提出)

○前田委員長 是ヨリ開會ヲ致シマス――

森幸太郎君

○森委員 同僚各位カラ大體各方面ニ互ツテノ御質疑ガアリマシテ、私ノ御尋セントスル所モ其中ニ含マレテ居ルノデアリマシガ、尙ホ二三御尋致シタイコトハ信用組合ニ此金庫事務ノ一部ヲ代行セシムルコトニ付キマシテハ、當局トシテ反對ノ御意向ノヤウニ先般承ッテ居ルノデアリマシガ、其反對セラレル根據ヲ承リタイ

○高木政府委員 代行機關ノコトニ付キマシテハ、先般來度々申上ゲタノデアリマシガ、金庫ト致シマシテハ、金庫ノ特殊ノ目的カラ致シマシテ、成ベク自己ノ手足ヲ用キル方ガ適切デヤナイカト云フノデ、成ベク自己ノ手足トシテ使ヒタイト云フ考ヲ持ッテ居リマス、デアリマスカラシテ、産業組合ニ事務代行ト云フコトヲ既定的ニ入レルコトハ困ルト思ヒマスガ、産業組合ニ拘ラズ其他ノ既設ノ機關ヲ自己ノ手足トシテ働カスト云フコトニ付テハ、別段反對ハナイノデゴザイマシテ、寧ロ成ベクサウ云フ既設ノ機關ヲ有效ニ利用スル方ガ宜シイ、唯代行ト云フトニナリマス、計算ノ混雜ト

云フヤウナコトヲ實ハ處レタノデアリマス

○森委員 私ハ金庫ノ事務ヲ實施サレル上ニ於キマシテ、今日信用組合ガ恩給金庫ノ今後行ハントスル事務ヲ既ニ行ッテ居ルト云フヤウナ立場カラ、地方ノ利用者ニ便宜ヲ與ヘル上カラ、信用組合ニ一部ノ事務ヲ代行セシムルコトガ適當デアルヤウニ、私ハ考ヘルノデアリマシガ、只今政府委員カラ其反對セラレル根據ヲ承ッテ置ク次第デアリマス

次ニ御尋致シタイコトハ、恩給證書ヲ擔保トシテ産業組合ガ現ニ融通ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ政府ノ監督機關トシテ産業組合ノ十分ナル監査ヲナサツタ場合ニ於テ、恩給證書ヲ擔保ニ入レテ金ヲ貸シテ居ルト云フコトヲ政府御自身ニ認メテ居ラレルノデアリマスガ、政府ハ恩給證書ト云フモノヲ擔保物件トシテ入レルコトハ出來ナイト云フコトヲ主張サレテ居リナガラ、一面ニ於テハ産業組合ノ監査ニ於テ恩給證書ガ現ニ擔保ニ入ッテ居ルト云フコトヲ御認メニナツテ居ル譯デアリマスガ、其間非常ニ私ハ政府ノ立場トシテ矛盾ガアリハシナ

イカト考ヘルノデアリマスガ、此點ニ付テノ御感想ヲ承ッテ置キタイト思ヒマス

○船田政府委員 只今森君ノ御質問ニナラレマシタ點ハ、先般當委員會ニ於キマシテモ私及ビ恩給局長ヨリ恩給金庫設立ノ趣旨ヲ申上ゲル際ニ、其點モ併セテ御説明申上ゲタノデアリマスガ、森君御指摘ノ通りニ、産業組合ノ殊ニ或ル特殊ノ信用組合ハ恩給證書ヲ擔保ニシテ金融ヲシテ居ルト云フ事實ガゴザイマス、ソレハ恩給法ノ規定ノ正

面カラ申シマシテモ、亦恩給制度創設ノ精神カラ申シマシテモ、確ニ矛盾シテ居ルコトデハアルト思ヒマス、併ナガラ先般來度度申上ゲマシタヤウニ、恩給制度ト云フモノガ 明治天皇ノ有難イ恩召カラ出タモノデアツテ、之ヲ擔保ニスルト云フヤウナコトハ、洵ニ大御心ニ副ハナイ間違ッタクコトデアリマスカレドモ、併シ社會ノ實情カラ申シマスルト、不時ノ出費ノ爲ニ脊ニ腹ハ代ヘラレヌト云フヤウナコトカラ、恩給ヲ擔保ニスルト云フ實例ガ隨分澤山行ハレテ居リマス、其爲ニ専門ノ金貸業者モ出來ルヤウナ狀況デアリマス、隨テ政府ト致シマシテハ、

一方ニ於テハ何處マデモ恩給ヲ擔保ニスルト云フヤウナコトノ起ラヌヤウニ致サナケレバナラスト考ヘテ居リマスガ、併シ又社會ノ實情カラ、殊ニ經濟逼迫ヲ致シテ居リマスル受恩給者ノ金融ノ途ヲ合理的ニ、弊害ヲ極メテ少クスルヤウニト云フ實際ノ必要ヲ考ヘマシテ、今回ノ恩給金庫法案ヲ提出致シタノデアリマス、ソコハ制度ノ正面ノ解釋問題、又恩給制度創設ノ趣旨ト、又社會ノ實際ノ必要ト云フコトノ間ノ調和ヲドノ點ニ求メルカト云フコトガ、結局此恩給金庫創設ノ趣旨ニナル譯デアリマス、一見矛盾シテ居リヤウデゴザイマスケレドモ、併シ規則一點張りデハイケマセヌノデ、御説ノ通りニ、實際上ノ、又經濟上ノ已ムヲ得ザル必要ト云フコトニ對スル一ツノ方便ト致シマシテ、恩給金庫ヲ創設スルト云フヤウナコトニ付テ、サウ云フ弊害ノ少ナカラシコトヲ期待シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○森委員 次ニ承リタイノハ、今回恩給金額ノ増額ヲサレタノデアリマスガ、此増額ハ月二十五圓ト云フコトヲ大體見當トシテ定メタト云フ話デアリマス、是ガ多イトカ少イトカ云フコトハ水掛論デアリマス、成ベク許セル範圍ニ於テ多ク給與シタイト云フコトニ相違ナイト思ヒマスガ、併シ今回定

メラレマシタ根據ハ何處ニ依ラレタノデアルカ、此根據ヲ一ツ承リタイノデアリマス、ソレト合セテ今回四號表ニアリマス一目二目ヲ四款ニ繰上ゲラレタ年金ニサレマシタ、サウシテ三目以下六目ヲ一ヨリ四目トサレテ一時賜金ニナツテ居ルノデアリマスガ、是ハ從來通りデ少シノ増額モナイノデアリマス、一面ニ於テ増額ヲスルト云フ立前ニ依ツテ計畫サレタ其改正案ニ、此四號表ニ殘サレタ一目乃至四目ト云フモノガ、依然トシテ其儘ニ存置サレテ居ル、是ハ甚ダ今回ノ改正ノ趣旨ニ副ハナイヤウニ考ヘルノデアリマスガ、此儘據置カレタ理由ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 只今御尋ノ點ニ付キマシテハ前ニ一度申上ゲタト思フノデアリマスガ、遺族扶助料ノ算出ノ基礎ニ付キマシテハ、企畫院ニ於テ調査致シマシタ所ノ全國ノ生活費基準ガ、大體年額三百圓乃至四百圓ト云フコトデゴザイマス、其最低額ノ三百圓ヲ取リマシテ月額二十五圓ニ大體當ルヤウナ額ヲ最低基準ニ置イタノデアリマス、ソレハ勿論都市ト農村デハ其間ニ差異ガアルノデアリマスガ、恩給制度ノヤウナ劃一的ノ規定ニ於テ、ソレ等ノ區分ヲ設ケルト云フコトハ困難デアリマスノデ、企畫院ニ

於テ調査致シマシタ全國ノ平均生活費ヲ基準ト致シタノデアリマス、ソレカラ款症以上ノモノニ對シテ増額ヲ致シマシタガ、目症以下ノモノニ對シテ増額ヲシナイノハドウ云フ譯デアアルカト云フ御尋デアリマシタ、是モ先般詳細ニ申上ゲタト思ヒマスガ、今回ノ増額ハ主トシテ症項ノ重イモノ、詰リ症狀ノ重イ者ニ厚ク給與シタイト云フ考デアリマシテ、段々上ノ方ニナル程厚クナリマシテ、下ノ方ニ行ク程其ノ増加ノ率ガ少クナル、其爲ニ程度ノ非常ニ輕イ所ノ目症以下ノモノニ對シテハ、増額ヲ致サナカッタノデゴザイマス

○森委員 輕イモノニ増額ヲセナカッタ其理由ガ承リタイノデアリマス、成程目症ハ款症ニ比ベマシテハ輕症ト言ヒ得ルガラウト思ヒマス、併シ殘存能力ハ相當持ッテ居リマスケレドモ、ヤハリ此目症ニ於キマシテモ、忽チ生活ノ狀態ニ變異ヲ來スコトハ勿論ダト思フノデアリマス、一面生活費ガ向上シテ、金額ノ増額ヲ要求セナケレバナラス社會情勢ニ在ル以上、ヤハリ目症ト雖モ此改正ノ機會ニ相當ノ増額ヲスルノガ當然デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、唯輕イモノニハ増額ヲセナカッタ、其間ノ事情ガ私ハ諒解ニ苦シムノデアリマス、總體的ニ上ゲ

ル、重キモノ程餘計増額シタト云フナラ分リマスガ、輕イモノデアアルカラト言ッテ其儘ニ據置イタト云フコトハ、今日増額ヲ必要トスル社會情勢カラ考ヘマシテ、ヤハリ目症ヲ其儘ニ置クト云フコトモ理由ニナラス、斯様ニ考ヘマスガ、其儘ニ置カレタモウ少シ徹底シタ理由ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 目症ノ内容ニ付キマシテハ、専門ノコトニ涉ルノデゴザイマスガ、實ハ現在ノ第三目症ノ程度ノモノハ非常ニ輕イモノデゴザイマス、獲得能力ト云フ上カラ申シマシタナラバ、假ニ勞働者ト致シマシテモ、殆ド大シタ影響ノナイ程度ノ症項ナノデアリマス、例デ申シマス、新第一目ニナリマス第三目症、是ハ現在ノ基準ニ依リマス、外部ニ現レマシタ症狀カラ申シマスレバ、片ッ方ノ環指、此指ノ機能ヲ廢シタモノト云フ程度デアリマス、一本ノ環指ノ機能ヲ廢シタ程度ノコトデアリマシテハ、普通ノ自由職業者ニ於テハ勿論、勞働者ニ於テモ、殆ド其作業能力ニ影響ガナイデハナイカ、是ハ大戰後ノ英吉利ノ「ウァー・ペンション」アタリノ例ニ依リマシテモ、日本ヨリモ遙ニアチラノ方ガ辛イ、辛イト申シマス……ドウ申シマス、程度ノ高イ者ニシカ給與シ

ナイ、アチラデヤッテ居リマス千九百二十一年ノ「ウアー・ペンション」ニ依リマス、片一方ノ二本ノ指ヲ全ク失ヒタル者以上ノ者ガ年金ニナル、所謂コチラノ傷病年金ノ第四款ニ當ルノデゴザイマス、ソレカラ以下ノ者ニハヤッテナイ、其點カラ考ヘマスト、英吉利ノヤウナ財政ノ比較的豐ナ所ニ於テサヘモ其程度ノ輕イ者ニハ給與ヲシテ居ラナイト云フ點カラ考ヘマシテ、先ヅ此程度ノ者ニハ一時金デ給與スルノデ宜クハナイカ、是以上ノ者ニ對シテ或ル程度ノ増額ヲシテ順次上ノ方ニ厚ク給與スルト云フコトデ宜カラウト云フノデ、此目症ノ第三目ニ基準ヲ置キマシタ、尤モ是ハ勅令ノ問題ニナルノデゴザイマスガ、今回ノ改正ニ伴ヒマシテ、多少症狀等差ヲ變更シナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、必然的ニ等差ノ改定ガ行ハレマスノデ、其際ニ從來多少ノ矛盾ノアリマシタ點ハ、症項等差ノ改定ノ際ニ考慮スル積リデ居リマスカラ、只今ノモノガ其儘ニ第一目ニナルト云フコトハナイノデス、左様ニ御諒承願ヒマス

ス、日本ハ日本トシテノ有難キ 明治大帝ノ思召ニ依ッテ作リ上ゲラレタ此制度デアリマスカラ、其例ヲ海外ニ求メル必要ハナイト思ヒマス、日本ハ日本トシテノ立場ニ依ッテ決定致シテ宜イト私ハ考ヘルノデアリマスガ、是以上ハ意見ノ相違デ議論ニナリマスカラ、私ハ其程度ニ止メテ置キマス 次ニ陸軍ノ方ノ政府委員ニ御尋致シタイノデアリマスガ、一々巨細ナル點ニ付テ實地ニ臨ンデ調査シタ結果ニ依ッテ申上ゲルノデハナイノデアリマスカラ、或ハ私ノ申上ゲルコトガ符合シテ居ラナイカモ知レマセス、併シ私ノ或ル程度調査致シマシタ所ニ依ッテ御尋致シタイノデアリマスガ、今回ノ事變ニ依ッテ多數ノ傷病兵ヲ出シマシタコトハ洵ニ遺憾ノ次第デアリマス

〔委員長退席、坂東委員長代理著席〕

ノデアリマス ○加藤政府委員 只今ノ御質問ノ要旨ハ、理論カラ申シマスト區別ノアルベキ筈ノモノデハナイ、併シ戰地ニ於ケル傷病者ノ手當、及ビ後送サレテ内地ニ歸ッテ參リマシテ以後ノ治療、療養ニ付キマシテ、戰闘中ノ某時期等或ハサウ云フコトヲ免レナイカモ知レナイト思ヒマス、私ハ現地ニ參ッテ傷病者ノ治療、其前ニ於ケル收容其他ノ實際ヲ體驗シテ參リマシタ、例ヘバ上海方面ニ於ケル傷病者ノ收容ニ對シマシテモ、土地ノ關係ト云ヒ、病院ノ設備ト云ヒ、或ハ其他假纏帶所、或ハ野戰病院、野戰豫備病院、兵站、病院ノ設備ト云ヒ、其間ニハ海軍ノソレニ比シテ少シク不便ナコトハドウシテモ免レナイノデアリマス、尤モソレハ極メテ短イ期間デアリマスシ、少數ノ人デアリマスケレドモ、サウ云フ場合ノアルコトヲ非常ニ遺憾ト致シマス、例ヲ以テ申シマスルト、海軍ノ方デハ直チニ病院船ニ收容スルコトモ極メテ容易デアリマス、陸軍ノ方ノ病院船モ容易デアリマスシ遺憾ハナイコトニ努メテ居リマスケレドモ、戰況ニ依リマシテハ傷病者ノ數ハ豫想ノ出來ルモノデハアリマセヌカラ、收容所ノ設備或ハ衛生部隊ノ設備ニ於テ、手ニ負ヘナイヤウナ

場合モアルト思フノデアリマス、併シサウ云フ場合ハ極メテ短イ期間多少不便ヲ忍ンデ貰ッタコトモアリマス、現ニ私ガサウ云フ體驗ヲシテ居リマスカラ能ク存ジテ居リマスガ、ソレハ併シホソノ短イ期間デアリマシテ、間モナク其後ニ於ケル設備ハ十分行届イタコトニナッテ居ルト信ジマス、内地ニ參リマシテ陸軍病院其他ニ於ケル治療ノ問題ニ付キマシテハ、サウ云フコトハナイ筈デアリマス、若シサウ云フコトヲ耳ニセラレタコトガアリマスナラバ、ソレハ極ソテ稀ノ事例デアルト思ヒマス、併シ數多イ傷病者ノコトデアリマスカラ、事實上サウ云フコトノナイヤウニ努メテハ居リマスルガ、アリマシタラソレハ極メテ例外ノコトデ、極メテ遺憾ナコトデアリマスガ、併シ今後ハサウ云フコトノ絶無ヲ期シテ居リマス

○森委員 アッデハナラナイコトデアリ、アルベキ筈ハナイノデアリマスガ、サウ云フ事實ガアルヤウニ考ヘサセラレル點ガアルノデアリマス、陸軍當局トシテ一層御注意ヲ煩ハシタイト思ヒマス、内地ノ陸軍病院ニ於キマシテノ軍醫ノ割合ト云フモノハ、ドウ云フ風ナコトニナッテ居リマスカ、傷病兵ノ數ニ依ッテ幾人ト云フヤウナ割合デモ

アルノデアリマス、承リタイト思ヒマス
○加藤政府委員 戦地ニ於キマシテモ、内地ニ於キマシテモ軍醫ノ割合或ハ補充ニ關シマシテハ、私此處デ申上ゲル自由ヲ有シマセヌ、治療ニ差支ヘナイヤウニ致シテ居リマスコトハ事實デアリマスルガ、打明ケテ申シマス、此頃ノ傷病者ノ數ガ實ハ多種多樣ニ涉ッテ居ルノデアリマス、平病者ハ方面カラ申シマス、少シク豫想シタ以外ノ者モアツタノデハナイカ、又戦傷者ノ方カラ申シマシテモ、今度ノ戦傷ハ兵器、戦闘ノ模様ニ依リマシテ、從來ノ戦傷ヨリモ少シク種類ガ變ッテ居ルノデハナイカ、過般此處デ、特殊ノ外科ヲ目標トシテノ病院ヲ設立致シタト云フコトヲ申上ゲマシタガ、是ハ兵器ノ異ナルコトニ依ッテ從來ノヤウナ戦傷トハ少シク變ッテ戦傷ガ出テ來テ居リマス、主トシテ神経系統ノ機能ニ屬スルモノガ多イノデハナイカ、是ハ外傷トシテノ治癒ハ致シマシテモ、サウ云フ神経系統ニ關スル方面ノ治療ガ伴ハナイト云フ虞レモアルノデハナイカ、斯ウ思ハレルノデアリマシテ、ソレニ付テノ治療ヲ特ニ設ケテ居リマス、治療スル場所、所謂病院モ設ケテ居リマス、サウ云フヤウナコトデ從來ヨリ少々變ッテ居リマスノデ、軍醫ノ方ノ之ニ對スル治療

ノ方針モ從來ヨリハ實ハ簡單ニ參ッテ居リマセヌ、各種ノ方面カラ研究ヲサレテ居リマスルシ、之ニ對應スルダケノ治療ノ方法モ講ジテ居リマスガ、患者何人ニ何人ノ軍醫ヲ割當テルト云フヤウナコトハ、是ハ私此處デ申上ゲラレマセヌコトハ洵ニ遺憾ニ存ジマス
○森委員 次ニ御尋致シタイノハ、傷病兵ト云フモノハ、其病氣或ハ怪我ノ程度ニ依ッテ、攝取スル榮養、或ハ食物ノ種類ト云フコトニ付テモ考ヘラレナケレバナラスト思ヒマスルガ、一日ドノ位ノ經費ヲ賄費ニ考ヘラレテ居ラレマスガ、其榮養攝取費ト申シマスガ、一日ドノ位ノ賄費ヲ病院トシテ割當テテ居ルカ、此程度ヲ承リタイト思ヒマス

○加藤政府委員 所謂患者費ト云フ豫算デアリマスガ、ソレハ私今此處デ記憶シマセヌカラ、後程調査シテ申上ゲマス、ソレハ平均シテノ豫算デアリマス、其中デノ取捨選擇、融通ト云フノハ是ハ出來ルノデアリマス、患者ガ戦傷者デアリ、戦病者デアルト云フノデ、一律ニ決ッタ經費ヲ食餌療法ニ充テテ居ルト云フノデハゴザイマセヌ、其融通ハ出來ルコトニナッテ居リマス、概括シテ幾ラカト云フコトモ私調査シテ申上ゲマ

ス、只今ハ能ク記憶致シマセヌ

○森委員 私希望ヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマスガ、傷病兵ノ家族ノ者ガ非常ニ色々心配致スノデアリマス、陸軍病院ニ收容サレテ居ル者ニ面會ニ行ッテ見タ所ガ、看護婦ノ手モ少ク、又攝取サレテ居ルモノヤ、賄ノ狀況ヲ見マシテ、如何ニモヒドイト云フヤウナ氣持ヲ家族ガ懷イテ居ルコトヲ私直接聞イタノデアリマス、戦時事變ニ出征致シマス時ニハ、民間ノ賄デアリマシタカ、陸軍ハ經費ヲ出サレテ、相當ノ待遇ヲ將兵ニサレタノデアリマスガ、ソレニ比シマシテ傷病者ニ對スル賄ノ點ガ非常ニ私ハ貧弱ノヤウニ考ヘラレルノデアリマス、勿論病氣ニ依リマシテ、或ハ怪我ノ程度ニ依ッテ、健康體ノ如クニ與ヘルコトハ或ハイケナイカモ知レマセヌケレドモ、大體ニ於テドウモ賄ガ不十分デアルト云フヤウナコトヲ家族ガ聞イテ、心配致シテ居ル事實ヲ私ハ聞クノデアリマス、看護婦ノ不足、或ハ軍醫ノ不足ト云フヤウナコトガ又一ツノ心配ヲ與ヘテ居ヤシナイカト思フノデアリマス、此軍醫ニ付キマシテモ、斯ウ云フコトヲ申上ゲテハドウカト思ヒマシマスガ、現役ノ軍醫ノ方ハ規律正シク、又何ト申シマスガ、手當ニ付テノ經驗モ持ッテ居

ラレルノデアリマスガ、今回ノ事變ニ臨時召集サレタル所ノ軍醫ノ方ガ、陸軍病院ニ勤務サレテ居ルノモ相當ノ數ガアルヤウニ考ヘルノデアリマス、斯ンナコトヲ申上ゲテハ、サウ云フ方ニ對シテ失禮デアルカモ知レマセヌガ、ドウモ現役ノ軍醫ノ方ノ如クニ執務ガ出來テ居ラナイノデハナイカト云フヤウナ心配モサレルノデアリマス、戦爭ニ行ッテ、サウシテ不幸ニシテ怪我ラシ、或ハ病氣ニナツタ將兵ニ對シテハ、出來ルダケノ手當ヲシテ戴イテ、サウシテ家族ガ安心シテ、陸軍病院ニ療養シテ居ルコトニ何等ノ不安ヲ與ヘナイト云フコトニ、軍トシテハシテ戴キタイト思フノデアリマス、是ハ私ノ希望デアリマスガ、之ニ付テ將來恩給ニ依リ、或ハ一時賜金ニ依ッテ今回ノ此戦傷ヲ慰安スルコトハ、國家トシテ當然デアリマスガ、私ハ物質的ノモノヨリ、寧ロ更ニ精神的ニ此戦傷者ニ對シテ國家ハ報ヒナケレバナラスト思フノデアリマス、戶籍面ニ戦死ト云フコトヲ書入レルコトニ改正サレタコトハ洵ニ結構デアリマスガ、更ニ勳等ノ如キコトモ戶籍面ニ表ハシテ、將來ニ其立派ナ軍功ヲ貽スルト云フコトハ必要デアリハシナイカト私ハ思フノデアリマス、又將來自分ノ戶籍面ニ軍功ヲ誇ル勳等ガ掲

ガラレル場合ニ於テハ、其子孫モ自分ノ戸籍ヲ汚サナイヤウニ注意スル譯デアリ、サウ云フ必要モアラウカト思フノデアリマシガ、軍當局トシテノ御考ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ今回ノ戦争ニ不幸ニシテ不具トナラレタ所謂廢兵ノ方ニ對シマシテハ、色々厚生省ニ於テ再教育ヲ考ヘ、或ハ今後ノ生活ニ支障ナカラシメルト云フコトニ付テノ折角ノ御研究ガナッテ居ルヤウデアリマスガ、私ハ精神的ニ報ヒルト云フコトニ付テ、出來ルダケノ方策ヲ考ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテノ陸軍當局ノ御意見ヲ承レバ結構ト思ヒマス

○加藤政府委員 森君ノ精神的慰安ヲ與ヘルト云フコトニ付テノ御意見ハ、洵ニ同感ノ至リデアリマス、私戰地ニ參リマシテ、親シク陸軍病院ヲ訪問致シマシタ時ニ、内地ニ於ケル銃後ノ模様及ビ軍中央部ノ方針トシテ戰時、殊ニ戰地ニ於テ斯様ナ不便ナ所デ療養シテ貰フコトハ實ニ相濟マスト思フガ、是ハ已ムヲ得ナイト云フコトヲ、心底カラ私ガ慰安ノ挨拶ヲ述べタ時ニ、居竝ブ床ノ上ニ居リマスル傷病兵諸君ハ皆頭ヲ垂レテ、後デ私ノ所ヘ、アソコマデ熱心ニ吾々ノ勞苦ヲ察シテ戴キマスレバ、吾々ハ

決シテ悔ユル所ガナイト云フコトヲ私度々聞イタノデアリマス、是ハ丁度森君ノ言ハレタコトト同意味デアラウト思ヒマス、苟モ戰場ニ露ト消エタ其人々ノ遺族及ビ戰傷者ノ家族、此人々ノ氣持ヲ十分慰安スルト云フコトノ方法ヲ講ズルコトハ、軍トシテハ私ガ申ス迄モゴザイマセス、當然必要デアリマス、隨テ先程御話ニ相成リマシタ陸軍病院ニ於ケル、或ハ其他ノ療養所ニ於ケル手當、看護ノ如キモ、出來ルダケ此旨ニ副フコトニ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ多數ノ看護婦或ハ軍醫ノ中ニハ、サウ云フ氣持ガビツクリト來ナイ人ガ萬ガ一ニモアツタノデハナイカ、私共非常ニ辛苦シク、心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、併シサウ云フコトノナイヤウニ斷エズ激勵ハ致シテ居リマス、居リマスガ、吾々ハドウシテモ其氣持デヤラナケレバナライノデアリマス、先程ノ家族ノ人ノ満足スルヤウニト云フ食餌療法ノ營養攝取ノ問題デアリマスガ、是モ平素カラ軍ノ方デハ特ニ注意ヲ拂ッテ居リマシテ、各醫科大學ニ於キマシテモ軍陣醫學ノ講座ヲ設ケテ居リマシテハ其榮養分ノ程度或ハ戰傷ニ對スル滋養分ノ攝取ノ方法、種類、例ヘバ傷病者ニ必要ナル「カロリー」デアルトカ攝取セシムベキ「ビ

タミン」デアルトカ、或ハ其他臨床ノ上ノ取扱ダトカ云フヤウナコトマデモ研究ハサレテ居ルノデアリマス、デアルカラ假令ソレガ現役、豫後備何レニ致シマシテモ、其コトハ大體承知致シテ居ル筈デアリマスガ、動トモ致シマスルト、多イ中ニハ此意味ノ徹底シナイコトモアリ得ルカト實ハ憂ヘテ居ナルト其應召以前ノ平素ノ家庭ノ生活ガ先入主ニナッテ居リマスルカラ、ソレデ一應ハサウ云フ御考ヲオ持チニナル方モアリ、隨分吾々直接サウ云フコトヲ承ッテ居ルノデアリマスルガ、大體ト致シマシテ、サウ云フコトノナイヤウニ十分平素ノ調査研究ニ基イテヤッテ居ルノデアリマス、併シ唯ソレガ戰後ノサウ云フ人々ニ對スル治療デアリマスルカラ、親切心ト云フカ、同情心ガ伴ヒマセスト、其間面白カラザル結果ヲ見ルノデアリマス、デアルカラ、物質上、精神上、所謂物心兩界ニ互ッテ親切ニ、是等國家ノ爲ニ犠牲ニナッテ貰フタ人々ニ對シテハ取扱ヲセネバナラスト云フ氣持デ、軍ニ於テハ十分注意ヲ致シテ居リマス、デアリマスルカラ今御話ニナリマシタヤウナコトノナイヤウニ、十分注意モ致シマスカラ、御諒承ヲ願ヒマス

〔坂東委員長代理退席、委員長著席〕ソレカラ内地ニ歸還ヲ致シマシテ、サウシテ症狀ガ變化シテ戰死シタ場合ノコトヲオ聴キニナツタノデアリマスガ、是ハ普通ノ取扱ヲ申上ゲマスト、戰傷シテ一旦治愈シタト云フヤウナ場合デモ、大體ノ取扱ハ今戰傷死トシテ取扱ッテ居リマス、併シ全然因果關係ノナイヤウナ場合ハ左様ニ取扱ヒ兼ネル場合モナイトモ限リマセヌケレドモ、大體斯ウ云フ際ニ於テハ、普通ハ戰傷死トシテ取扱ッテ居リマス、是ハ取扱ッテ居リマスル内容ヲ私申上ゲルコトハ、實ハ考ヘナケレバナラスト思ヒマスガ、ソレ位同情ヲ以テ取扱ッテ居リマス、此コトヲ一言申上ゲテ置キマス

○森委員 只今戰時中デアリマスカラ、軍部トシマシテハ、各般ニ十分手ノ届カヌト云フコトモ已ムヲ得ナイトハ思ヒマスガ、出征軍人ノ家族トシマシテハ、不幸ニシテ戰傷シタ場合ニ於キマシテ、其手當、療養ト云フコトニ非常ニ心配ヲシテ居リマスノデ、ドウカ病院ニ依ッテ手當ガ違フ、或ハ陸海軍ニ依ッテ違フト云フヤウナコトノナイヤウニ、出來ルダケ一ツ十分ニ手當ヲシテ、家族ヲシテ不安ノ念ヲ懷カシメナイト云フコトニ、折角ノ御配慮ヲ御願致シタイト思

フノデアリマス、此希望ヲ申上ゲテ私ノ質問ヲ終ルコトニ致シマス

○前田委員長 江藤源九郎君——一寸御諮リシマスガ、陸海軍大臣ハマダ出席ニナリマセスガ、差支アリマセスカ

○江藤委員 宜シウゴザイマス——恩給金庫法ニ付テ一寸御尋致シタイト思ヒマス、同僚カラ度々御質問ガアリマシタガ、資金ノ利率ノ五分五厘ト云フモノヲモット三分位ニ減ラシ、又經營費ヲウント節約致シマシテ、サウシテ貸付利息ヲ五分位ニ減ラスト云フヤウナ御考ハアリマセスカ、御伺致シタイト思ヒマス

○高木政府委員 出資金ノ利率ニ付キマシテハ、是ハ豫定デアリマシテ、今ノ五分五厘ト云フコトニ確定シタ譯デハナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ、先般モ申上ゲマシタヤウニ、此資本金ハ主トシテ金庫ノ財的基礎ヲ固メルト云フ程度ニ止メマシテ、實際ノ運用資金ト致シマシテハ、他ノ方面カラ借入レルコトニ依ッテ、成ベク安イ金ヲ求メル積リデアリマス、唯此資本金ト云フコトニナルト、後ノ拂込義務ノ負擔等ノ關係上、ヤハリ相當ノ剩餘金配當ト申シマスカ、配當ヲ行ヒマセスト、一般トノ均衡ガドウカト考ヘマスノデ、成ベク資金ノ

方ハ拂込ヲ少ク致シマシテ、運用資金ヲ他

ニ求メル積リデアリマス、事務費ニ付キマシテモ、出來得ル限り節約ヲ致シタイト考ヘテ居リマスノデ、御手許ニ差上ゲマシタ設立要綱ハ單純ナ吾々ノ方ノ腹案ト云フ程度ノモノデアリマスノデ、實際ノ問題ニ付キマシテハ、尙ホ設立準備委員會等ニ於キマシテ、慎重ニ研究致シマシタ上デ、出來得ル限り節約ヲ行ヒタイト云フ考デ居リマス、又貸付利息ニ付キマシテモ、豫定ハ六分ト云フコトニナッテ居リマスガ、是モ資金「コスト」ノ關係デアリマシテ、若シ安イ金ガ得ラレマシテ、將來トモ計算上立行クト云フコトデアリマスレバ、モット此利率ヲ引下ゲル積リデアリマス、唯當初ノ私共ノ計畫ト致シマシテハ、元來ガ素人デアリマスノデ、成ベク餘裕ノアル計算ヲ立テテ置キマセスト、將來是ガ出來マシテカラ利率ヲ上ゲルト云フヤウナコトガアッテハ、却ッテエ合ガ悪クハナイカ、出來得ル限り安全率ヲ見越シタ利率等ヲ計算ニ立テテ居リマスガ、將來出來得ル限り、貸付利率ハ引下ゲタイト考ヘテ居リマス

○江藤委員 安イ金ヲ御借リニナルコトニ付テハ十分ニ御配慮ヲ願ハナケレバナリマセスガ、實際問題ト致シマシテハ、現在ノ

御豫定ノ通りノ利率デ御ヤリニナリマスレ

バ、現在後援會或ハ義濟金等デ融通シテ居リマスモノヨリモ、高イ利率ニナルノデアリマス、サウシマスレバ成程此恩給金庫法ガ出來マシタ爲ニ、現在義濟會或ハ後援會等ニ於テ金ヲ借リルコトノ出來ナイ老年者或ハ重傷者等ヲ救フコトハ出來マス、救フコトハ出來マスガ、半面ニ於キマシテ多數現在借リテ居リマスル者ガ今度ハ高イ利息ノ金ヲ借リナケレバナラスト斯ウ云フコトニナルノデアリマス、即チ六分ノ利息ニ、生命保險ヲ付ケテ居ル者ハ補償料トシテ一分、合計七分ノ利息ヲ拂ッテ肩替リラシナケレバナラスト、現在ハドウカト申シマス、御承知ノ通り義濟會ニ於キマシテハ六分五厘七毛、後援會ニ於テハ六分六厘デアリマス、若干デハアリマスケレドモ、高イ利息ノ金ヲ多數ノ者ガ借リナケレバナラスト云フコトニナルノデアリマスカラ、素人ノ御計畫ト云フ御話モアリマシタケレドモ、恩給金庫ヲ御作リニナルノニ、アナタ方バカリガ寄ッテ御作リニナラナクテモ、政府ノ御仕事ナンデスカラ、政府ニ玄人ガ、澤山居ルノデスカラ——ナケレバ民間カラ玄人ヲ御引上ニナリマシテ、サウシテ最大限ノ安イ利息デ貸スト云フ方法ヲ御計畫ニナリマセスト云フ

ト、折角ノ恩給金庫法ガ却テ現在ノ多數ノ恩給受領者ヲシテ困ラセルト云フ結果ニナリハセスカト思フノデアリマス、其點ニ付テドウゾ十分ノ御配慮ヲ御願シテ置キマス

ソレニ付テ只今御説明ガアリマシタヤウニ六分ト云フノハ成ベク安全ヲ圖ッテヤッタンデアル、ダカラシテ成ベクソレヲモット減ラシタイト云フ御意圖ガアリマセウカ、ソレヲ念ノ爲ニ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○高木政府委員 只今ノ御質問ハ洵ニ御尤ナコトト考ヘマスノデ、出來ル限り成ベク安イ利息ニ致シマスヤウニ取計フ積リデアリマス

○江藤委員 次ハ恩給法ノ改正ニ付テ若干御質問申上ゲタイト思ヒマス、此恩給法ハ私ガ申上ゲル迄モナク、第一線ニ奮闘シテ居リマスル將兵ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムル第一ノ方法デアラウト思フノデアリマス、即チ遺族並ニ傷痍軍人ノ生活ヲ之ニ依ッテ保障シテヤル意味ガアルノデアリマスルカラ、今次ノ恩給法ノ改正ト云フコトハ、最も重大ナ意義ガアルト思フノデアリマス、ソレデ出來ルダケ慎重ニ審議シテ、遺憾ナキヲ期シタイト思フノデアリマスルガ、先日モ申上ゲタヤウニ、第一線ニ於テ部下ヲ名譽ノ戰死者タラシメ、又ハ傷痍軍人タラ

シメダ指揮官——將兵ノ心理狀態ヲ最モ能ク了解シテ居ラル、所ノ陸海軍大臣ノ御意見ヲ承ルト云フコトハ、此際最モ重要ナコトト思ッテ、兩大臣ノ御出席ヲ數日來御願シテ居ルノデアリマスケレドモ、遂ニ御出席ヲ得マセスコトハ、是亦已ムヲ得ヌ事情ガアルノデアリマスノデ、此際取敢ズ政務次官ノ御意見ヲ承ッテ、他日機會ガアリマシタナラバ、其中ノ重要ナル點ニ付テハ是非陸海軍大臣ノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、今回ノ恩給法ノ改正ノ御趣旨ハ洵ニ結構デアリマシテ、私ト致シマシテモ御趣旨ニ付テハ全然同感デアルノデアリマス、併ナガラ其内容ヲ檢討シテ見マスルノニ、ドウモ御趣旨ニ副ハナイ、或ハ不徹底デアルト云フ點ガ段々アルヤウニ思ハレルノデアリマシテ、私ノ愚見ハ御手許ニ差上ゲテアリマスカラ、仔細ニ御覽ノ上一ツ御教示ヲ御願シタイト思フノデアリマス

第一ニ遺族扶助料ノコトデアリマスルガ、ドウモ所謂死シテ者貧乏デ、遺族ト云フモノガ閉却サレテ居ルト云フコトハ爭フコトノ出來ナイ事實デアアルノデアリマス、此内閣ニナリマシテモ、ヤハリ其事ガ事實トシテ現レテ來ルコトヲ洵ニ私ハ遺憾ニ思フ、ソレハ傷痍軍人保護對策會議ト云フモノ

ガ官制ニ依ッテ出來マシタガ、遺族保護對策

審議會ト云フモノハ官制ニ依ッテ出來ナイノデアリマス、唯傷痍軍人ノ附タリトシテ遺族ヲ研究シタニ過ギナイ、サウ云フ風ニドウモ遺族ガ閉却サレルト云フコトハ、皇道政治ヲ宣布スル日本ノ政治ト致シマシテハ、洵ニ遺憾ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、先刻ノ恩給局長ノ御話ニモ、遺族扶助料ノ基準ハ企畫院ノ報告ニ依ッテ、國民ノ生活費用ノ三百圓乃至四百圓ヲ大體見當トシテヤッタシタト云フ御話デアリマシタガ、ソレガ一家族デアルカ、一人デアアルカ明瞭デアリマセヌデシタガ、假令ソレヲ一家族ト致シマシテモ、三百圓乃至四百圓デアアルナラバ、ドウモ是ハ第三階級ノ人ダラウト思フノデス、其大衆ノ生活費ノ三百圓乃至四百圓ノ三百圓ト云ヘバ一番最低限デス、其最低限ヲ御採リニナルト云フコトハドウ云フ譯デセウ、名譽アル將兵ノ遺族ヲ優遇スルト云フ御趣旨ニ適ハスノデハナイカ、切メテ四百圓ヲ御採リニナツタラ如何デスカ、三百圓ヲ御採リニナツタ理由ヲ承リタイ

○高木政府委員 生計費ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ色々調査ノ方法ニ依ッテモ異ルト考ヘルノデアリマスガ、大體企畫院デ調査致シマシタ全國平均ノ生計費ニ依リマシ

テ、家族二人位ヲ基準ト致シマシタナラバ、三百圓乃至四百圓程度ガ適當デアラウト云フコトデ、其處ニ基準ヲ置キマシタノデス、當初ハ成ベク遺族優遇ノ爲ニ出來ル限リノ増額ヲ致シタイト云フ風ニ考ヘタノデアリマスガ、一面是等ノ從來ノ上リ方ガ非常ニ少カツタ、是ハ怠慢ダト申サレ、バ怠慢デアルカモ分ラナイノデアリマス、ケレドモ、兎ニ角從來ノ率ガ非常ニ少イノデアリマシテ、ソレニ對シテ今度ノ増加ト云フモノハ相當飛躍ノ増加デ、殆ド從來其比ノ無イ程ノ増加率デアアルノデアリマス、先ヅ色々價トカ財政ノコトナンカヲ考ヘマスト、將來ノコトモアリマスノデ、大體最低基準ノ程度ヲ定メマシテ、アトハ他ノ補助施設等ニ依ッテ補フノガ相當デアラウト云フノデ、内務當局ノ方ト交渉ヲ進メマシテ、大體此基準ヲ決メマシタノデアリマス

○江藤委員 私モ成ベク簡單ニ申シマスカラ、答辯モドウゾ成ベク簡單ニ御願シタイト思ヒマス、飛躍ノニ上ゲタト御言ヒニナリマスガ、成程今度ハ從來ヨリモ飛躍的デアリマス、併ナガラ明治四十四年以前ノ戰死者遺族扶助料ト増加恩給扶助料トノ増加率ノ比較ヲ御手許ニ差上ゲテアリマスガ、ソレヲ見マスト、此扶助料ノ増加率ハ増加

恩給ノ増加率ニ比ベテ決シテ飛躍的トハ私

ハ言ハレスト思フ、此増加恩給ノ増額ハ、大正九年カラ大正十二年ニ増加致シマシタ時ハ二等兵ノ増加率ハ七十五割モ上ッテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デ是ハ少ケレバ上ゲルノハ當然デアリマス、ソレヲ從來ヨリ飛躍シタカラソレデ満足セイト云フコトデハ、私ハ承服出來ヌト思ヒマス、成程今申シマシタヤウニ、増加恩給ノ方ハヨリ以上ニ飛躍シテ上ッテ居ルノデアリマスケレドモ、尙ホモウ一ツセメテ戰死ヲ致シマシタ遺族ニハ、一日一圓位ノ保障ヲシテヤルト云フコトガ基準ニナルノデハナイカ、今日ノ勞働賃銀ヲ考ヘテ見マシテモ、先ヅ一日一圓ト云フノガ出ズ入ラズノ賃銀デハナイカト思フ、デスカラ一家ノ生活ノ基ヲ成シタ者ガ名譽ノ戰死ヲ致シタ場合ニハ、最小限度一圓位ヲ其遺族ニ扶助料トシテヤルト云フコトガ當然デヤナカラウカ、今回ノ増加ヲ見テ見マスト、一等兵ニ於テ月額二十四圓デスカラ、一日八十二錢ニシカナラヌノデアリマス、是ガ上等兵ノ場合ハ九十錢、之ヲセメテ一圓ニシテ、其位デ我慢サセタイト思ヒマスガ、ドウ云フ譯デ其位ニマデ御殖ヤシニナルコトガ出來ヌノデアリマセウカ、其點ノ御意見ヲ承リタイト思

フノデアリマス

○船田政府委員

此問題ハ先般來度々本議場及ビ當委員會ニ於テ私共ヨリ御説明申上ゲマシタ通りニ、江藤君御指摘ノ通り、出來ルダケ優遇ヲ致シタイト云フコトハ政府モ勿論考ヘテ居リマス、併ナガラヤハリ諸般ノ情勢ヲ考ヘルコトガ第一ニ必要デアリマシテ、唯金ノ點ダケヲ以テ優遇スルト云フコトデナク、名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレタ方ニ對シテハ、靖國神社ニ合祀スルト云フヤウナ名譽的ナ方法モアリマス、又一時賜金ノ方法モアリ、又遺族ニ對スル隣保共助ト云フコトニ付テモ、政府ハ常ニ十分ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ又此金額ノ問題ニ付キマシテ、江藤君カラ非常ニ貴重ナル資料ヲ戴キマシテ、色々比較研究スルノニ大變便宜ヲ得ルノデアリマスガ、御指摘ノ通りニ、増加率ハ増加恩給ノ増加率ニ比較致シマシテ、扶助料ノ方ガ少イト云フコトハ、是ハ事實デゴザイマス、併ナガラ増加恩給ノ問題ニ付キマシテ、是亦先般來度々申上ゲマシタ通りニ、重傷者ニ厚クスルト云フ意味ニ於キマシテ立案ヲ致シマシタ、隨テ此増加率ト云フモノハ相當ニ多額ニナッテ居ルノデアリマス、殊ニ御承知ノ通りニ、重傷者ニ付キマシテハ、生キテ居ルガ爲ニ

救護、療養ト云フヤウナコトデ金ガ掛ルト

云フコトモ事實デアリマス、ソレカラ戰死者ノ遺族ハ洵ニ御氣ノ毒デアリマスガ、併シ此三百圓前後ノ金ヲ以テ、遺族ガ徒食シテ間ニ合フト云フヤウナ立前デ出來テ居ルノデハアリマセス、遺族ト雖モヤハリ働イテ戴キタイ、サウシテ一般農村ノ生活狀況カラ申シマスレバ、年額三百圓ト云フコトハ、今日ノ日本ノ現狀ニ於キマシテハ決シテ少額ニ失スルトハ私ハ考ヘテ居ナイ、ソレ等ノ諸般ノ情勢ヲ一ツ御考慮ヲ願ヒマシテ、勿論個人々々ニ付テ見マシタナラバ、是デ以テ十分ダ、有餘ルモノダ、サウ云フ考デ政府ハ提案ヲシテ居ルノデアリマセスノデ、諸般ノ情勢ヲ考ヘテ、先ツ此程度デ一應満足セザルヲ得ナイ刻下ノ情勢デアルト云フコトモ、十分御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス

○江藤委員

只今精神的ノ優遇モシテアルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、ソレハ仰シヤランデモ私共能ク存ジテ居リマス、ソシナコトヲ論ジテ居ルノデナイ、ソレハ當然ノコトデス、只今ハサウデナクシテ、生活ニ直接必要ナ遺族扶助料ノコトヲ論ジテ居ルノデアリマシテ、尙ホ傷痍軍人ノ重傷者ノ御話モアリマシタガ、ソレハ又當ラ

ヌノデアリマシテ、ソシナコトヲ言ッテ居

ルノデナイ、私ガ傷痍軍人ノ増加率ガ多イト言ッテ御手許ニ差上ゲテアルノハ、重傷者デアリマセス、第六項傷ノ一番ノ輕傷者ヲ擧ゲテ居リマス、其輕傷者ニ於テ然リデアリマス、又三百圓ハ農村等ニ於テハ少額デナイト仰シヤツタノデアリマスガ、成程一人デ幕シテ居ルト云フヤウナモノデアアルナラバ、ソレハ少額デナイカモ知レマセス、併ナガラ遺族ハ必ズシモ一人デナイトハ言フマデモナイ、又農村ニ於テ多イト云フ點モアリマスガ、半數位ハ矢張り都會ニモアル、ソレガ僅カ一日八十錢、而モソレガ子供ガアルトカ、親ガアルトカ致シマスレバ、二人ニナッテ一日四十錢デハ足ラス、一日四十錢ト云フコトハ、果シテソレダケノ名譽アル遺族ヲ優遇スル所以デアリマセウカ、又今回ノ改正法ヲ見マスルト、家族ガ多クナツタニ連レテ、ソレニ加給スルト云フ法律ガ出來テ居リマスルコトハ、是ハ洵ニ結構ナ法律デアリマシテ、私共此御著意ニ大ニ敬意ヲ表スルノデアリマスルガ、併ナガラ其加給率ガ非常ニ少イトデアリマシテ、唯申譯ニ加給シタニ過ギナイト云フ風ニ考ヘラレマス、此加給率ニ付テハドウ云フ基礎ニ依ッテ御作りニナリマシタカ、御

意見ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員

加給ニ付キマシテハ關係省トモ相談ヲ致シタノデアリマスガ、頭數ニ依ッテ一律ニ殖エルモノデモナカラウ、大體ノ基準ヲ二人程度ニ置ケバ、其次ノ三人程度ノ所ハヨリ金ガ掛ルノデアリマスガ、四人五人ト頭數ヲ増シタ場合ニヤハリ其儘ノ律デ、均一ノ律デ増加スルカト云フト、必シモサウデハナイ、是ハ先程申シマシタ企畫院ノ生計費調査等ニ依リマシテモ、家族給ノ中、全家族ノ共通費、ソレカラ大人一人當リノ生活費、小人、老人一人當リノ生活費ト云フモノハ、大體抽象的デハアリマスガ、出ルノデアリマス、ソレ等ヲ參酌致シマシテ、適當ニ按配シタラ宜カラウト云フコトデ、此基準ヲ定メタノデアリマス

○江藤委員

是モ亦調査表ヲ御手許ニ差出シテアリマスルガ、勿論頭數ニ依ッテ殖シテ行クト云フヤウナコトハ私ハ考ヘテ居リマセス、ソレハ多クナレバ同ジ家ノ中ニ三人住ンデ居ッテモ、五人住ンデ居ッテモ家賃ハ同ジダト云フコトハ分リ切ッタコトデアリマスカラ、サウ云フ御説明ヲ聽イテ居ルノデハナイノデアリマス、實際問題トシテ是ダケノ加給デ喰ッテ行ケルカト云フコト

ヲ承ツテ居ルノデアリマス、提出案ノ加給率ヲ三人ノ場合ヲ檢討致シテ見マスルト、基礎ノ扶助料ヲ加ヘマシテ三人デ割ツテ見マスルト、一日ガ三十七錢五厘ニナルノデアリマス、子供ガ一人、親ガ一人ト云フ場合ガ、是ガ三人デス、親ガ一人、子供ガ二人ダト云フト四人ノ場合ガ出來テ來マス、三人ノ場合ハ相當多カラウト思フ、サウスルト是ガ三十七錢五厘、五人ノ場合ダト云フト二十六錢一厘ニシカナラナイ、是ハ上等兵ノ場合デスガ、一體斯ウ云フコトデ、名譽アル上等兵ノ戰死者ヲ遇スル所以デアラウカト云フコトノ私ハ疑フ持ツノデアリマス、

フノデアリマス、出征シテ居ル者ハ、是ハ生キテ還ルト云フコトモ多分ニアル、併シ名譽ノ戰死ヲシタ者ハモウ還ツテ來ナイノデアリマスカラ、是等ハドウシテモ出征シテ居ル家族ノ扶助ヲスルヨリ以上ニ私ハシテヤラナケレバナラスト思フノデアリマスカラ、御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 只今ノ出征兵ノ扶助額ノ問題ニ付キマシテハ私モマダ詳細ニ能ク存

カト云フコトノ私ハ疑フ持ツノデアリマス、參考ノ爲ニ出征兵ノ家族一日一人ノ扶助額ヲ調べテ見マス、是ハ多少違ヒガアルカモ知レマセスガ、六大都市ニ於キマシテハ三人ノ場合ガ平均四十四錢ト云フコトヲ承ツタノデアリマス、ソレカラ五万以上ノ都市トカ、色々細別ガアリマシテ、町村デハ二十九錢、二人ノ場合モ二十九錢、三人ノ場合モ二十九錢、四人ノ場合モ二十九錢、五人ノ場合モ二十九錢、斯ウ云フコトニナツテ居ルト云フコトデアリマス、此出征兵家族一人一日ノ扶助額ト、戰死致シマシタ遺族ノ扶助額トノ比較ヲ見テミマス、私ハ戰死者ノ扶助額ガ少イコトヲ甚ダ遺憾ニ思

ジテ居リマセスガ、聞イテ居リマス所ニ依リマス、是ハ必シモ一樣デハナイヤウデアリマス、ソレデアリマスカラ、此四十四錢、或ハ二十九錢ト云フノモ、都市ニ依リ、町村ニ依リソレノ差ガアルコト考ヘルノデアリマシテ、此額通りデモナイヤウデアリマス、假ニ此額通りデアルト致シマシテモ、先程來申シマシタヤウニ、元來恩給法で見テ居リマスノハ、都市ト農村ト區別ヲスルヤウナ組織ニナツテ居リマセスノデ、其平均カラ見マシタナラバ、必シモ低イトハ考ヘラレナイ、寧ろ農村ニ於キマスル現在ノ扶助額カラ見マシタレバ、家族一人當ノ扶助率ハ高クナツテ居ルト云フコトニナル、ソレデヤ何故都會地ニ於テ下ルカト云フコトニナリマス、是ハ先程モ申シマシタヤウニ、都會地ニ對シテ特別ノ給與ヲスルト

云フヤウナ恩給法ノ制度ガアリマセスノデ、是ハ先般來モ申上ゲマシタヤウニ、他ノ施設ヲ以テ之ヲ補フテ行ク、軍人ノ遺家族デアリマシテモ、ヤハリ國家非常時デアリマスカラ、唯其處デ遊ンデ食ツテ行クト云フコトデハナク、出來得ル限り自分達モ働イテ、總テテ政府ノ施設ニ俟ツト云フコトデナク行カシメルト云フコトガ宜イト思フノデアリマシテ、此點ニ付キマシテハ、御承知ノ通り傷痍軍人ニ對スル保護對策會議會ニ於キマシテモ問題ニナツテ居リマシタヤウニ、ヤハリ保護對策ヲ遺族ニマデ及ボスト云フ趣旨デアリマスノデ、遺家族ニ對シマシテハ、職業ノ輔導ナリ、就職紹介ナリト云フヤウナコトノ他ノ施設ニ依ツテ、都會ニ居リマス者ニ對シテハ適切ナル施設ヲシテ行キマシテ、恩給ノ問題トシテハ此程度デ止メルコトガ已ムヲ得ナイノデハナイガラウカト考ヘマス

フ感ジテ申上ゲタノデアリマスガ、是ハ議論ニナリマヘカラ、是以上ハ申上ゲマセス、働クト云フ點ニ付キマシテハ、現恩給法ニ依リマス、子供ガ二十歳ニナルト恩給ガ停止サレルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、今日ノ情勢カラ考ヘテ見マスルト、二十歳デハマダ一本立ノ働キハ私ハ出來ヌト思フノデアリマス、是ガ學校ニ行ツテ居ルヤウナ者デアアルナラバ、セメテ二十五ニナラスト云フト一寸シタ學校ハ卒業セス、又勞働者ニ致シマシテモ、マダ二十歳デハソレデ一家ヲ養フツテ立ツテ行ク、他ノ者モ養フテ行クト云フダケノ腕前ニハナラスト私ハ思フ、デスカラ之ヲ現實ノ問題トシテ考ヘマシテモ、母親モ死ンデシマフ、殘ツタ子供ガ二十歳ニナツタ、弟ガ十八十六ノガ居ル、或ハソレガ女ノ子デアルト云フヤウナ家庭デ、子供ガモウ二十ニナツテシマッタ——ソレハ次ノ者ガ貰ヒマスガ——サウ云フヤウナモノデ二十ニナツタラ直グ止メルト云フコトデハ、一家ヲ養フツテ立ツト云フダケノ能力ガナイノデ、到頭一家離散シテ居ルト云フヤウナ手紙ヲ方々カラ私ハ受取ツテ居ルノデアリマス、ソレデ之ヲ二十五歳ニ延バスト云フコトガ適當デヤナイカト思フ、二十五歳マデ扶助料ヲヤル、斯ウ云フ

意見が段々參ッテ、私モ成程二十デハ今日デハムヅカシイノダラウト云フヤウナ感シヲ致スノデアリマスガ、當局ノ御意見ハ如何デゴザイマスカ

○高木政府委員 一應御尤ノコトニ考ヘルノデゴザイマスケレドモ、只今ノ恩給法ノ立前デハ孤兒ト云フコトニナッテ居リマシテ、普通ノ觀念デ申シマシテ、成年以上ニナルト云フヤウナ者ヲヤハリ孤兒トシテ扱フト云フコトハドウダラウカト考ヘマスシ、又農村バカリデハアリマセス、都會地ニ於キマシテモ、教育ヲ受ケルト云フヤウナ階級ハ比較的少イノデアリマシテ、其他ノ者デアリマシタナラバ、大體丁年ニ達スレバ兵役ニモ行キ得ル程度ニナッテ居リマシテ、先ヅ民法其他ノ點カラ一人前ニナッテ、成年ニ達シタト考ヘラレルノデアリマスカラ、其點ヲ基準ト致シマシテ滿二十歳ト云フコトヲ恩給法ガ決メタモノト考ヘルノデアリマス、隨テ將來トモ之ヲ變ヘルト云フコトニ付キマシテハ、現在サウ云フヤウナ考ハ持ッテ居リマセス

○江藤委員 戰病死者ノ遺族ニ遺族扶助料ヲヤルト云フコトハ、ヤハリハ優遇ト云フ意味ガ玆ニ必ズアルノダラウト思ヒマス、唯食ッテ行ケレバ宜イト云フ最小限度デ滿

足スベキモノデハナイト思フ、ダカラ他ノ施設ニ於テ精神的、其他ノ優遇モアリマスルガ、サウ云フ意味カラ考ヘテ見マシテ、唯二十歳ニナレバ孤兒トモ云ヘヌカラ、ソレデ打切ッテシマフト云フナラ、唯食ッテ行クト云フコトダケヲ標準ニシテ、優遇ト云フ意味ガソコニ缺ケテ居ルノデハナイカト感ズルノデアリマス、此點一ツ御考慮ヲ煩ハシテ置キタイト思ヒマス、遺族扶助料ノ問題ニ付キマシテハ、私ト政府當局ノ考ノ相違デアリマスカラ、此程度ニ致シテ置キマス

次ハ傷痍軍人ノ遺族扶助料ノ問題デアリマス、是モ御手許ニ調査表ヲ差出シテ置キマシタガ、是ハ年來問題ニナッテ居タ、政府モ御認ニナッテ居リマス、重症者ヲ優遇スルト云フ御考ノ現ハレダラウト思フ、現行法ニ依リマス、重症者殊ニ第一項等デ兩手或ハ兩足ガ無イト云フヤウナ者ノ増加恩給ト普通恩給トノ合計ガ千五十圓一年ニア

ハ殆ド今日ハ行方不明ニナッテ居リマス、居リマセス、ソレハ又居ラレヌノデアリマス、此點ニ付テハ前ノ樋貝恩給局長アタリモ此問題ハ涙無クシテハ話セヌト迄モ仰シヤッタノデアリマス、今回ノ提案ヲ見マス、ソレガズツ殖エマシテ、百六十二圓トナッテ居ルノデアリマス、是ハ洵ニ結構ナ御著意ト思ヒマスガ、唯玆ニ不可解ナ事ハ、此重症者ノ百六十二圓モ第七項ノ輕症者ノ遺族

モ百六十二圓デアッテ、是ガ私ニハ分ラヌ、重症者ハ政府ノ御意圖ノアルヤウニ重クシテヤラナケレバナラヌ、又實際遺族モサウシテヤラナケレバ、是カラ戰爭後若イ二十六カラ三十位ノ兩手ガ無クナツタリ或ハ重傷ヲ受ケテ歸ツタ者ガ、一番必要ナコトハ、之ニ適當ナ配偶者ヲ與ヘテヤルト云フコトデアリマシテ、其配偶者ガ考ヘルコトハ、成程夫ガ生キテ居ル時ハ名譽アル傷痍軍人ノ妻トシテ社會モ認メテ呉レルダラウケレドモ、一旦夫ガ死シタ後ハドウナルデアラウカト云フコトハ、ソレハ馬鹿デアリマセヌカラ先ノコトヲ考ヘマス、又重症ノ夫ハ早く死スト云フコトモ是亦考ヘラレル、サウナリマスト、死シタ後一週ニ百六十二圓ニ減ッテ——七十五圓ヨリモ多イデスケレドモ、百六十二圓ト申シマスト月額ニシマ

スト僅ニ十三圓餘リニシカナラナイ、デスカラ是ハドウシテモ重症者ニハモット多クシマシテ、輕症者ハ減ラスト云フ風ニ致スコトガ實際デアラウト思ヒマスガ、御當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 増加恩給ヲ持ッテ居リマス者ノ遺族ニ對スル遺族扶助料ガ急激ニ減ルト云フコトハ屢々問題ニナッテ居リマシタガ、昭和八年ノ改正ノ際ニ五年間三割増ト云フ規定ヲ設ケマシテ、其點ヲ或ル程度緩和致シタノデゴザイマスガ、是モ更ニ五年後ニナッテ三割ガナクナッテシマウト云フトニナレバ、ヤハリ同ジコトデアル、今日ノ改正ニ於キマシテハ此五年間三割増ト云フコトヲ恒久化致ス積リテ最初此案ヲ組ンダノデアリマス、併ナガラ是モ先程申上ゲマシタヤウニ、ヤハリ程度ガゴザイマシテ、一時ニ飛躍的ニ上ゲルト云フコトモ如何デアラウカ、現ニ今回玆ニ出シテ居リマス案ニ於キマシテモ、増加ノ割合ハ増加恩給ヲ持ッテ居リマス受給者カラ轉給サレル場合ガ一番高クナッテ居ルヤウナ状態デアリマス、實ハ是デモ高過ギルノデハナイカト云フヤウナ議論モ部内ニアッタ程デアルノデアリマス、成程額カラ申シマスト、極メテ少額デアリマシテ、非常ニ御氣ノ毒ニハ感ゼラレ

マスケレドモ、此點モ普通ノ増加恩給ヲ持ッテ居ナイ所ノ受給者ノ扶助料額ト比較致シマス、是亦格段ノ差ガアルノデアリマス、増加恩給受給者ガ増加恩給ノ原因タル公務死亡ナリマシタ場合ニ於テハ、或ハ戦闘ニ因ル公務或ハ普通ノ公務トナツテ、ソチラノ方ニ入ルノデアリマスカラ、唯單ニ増加恩給ヲ持ッテ居ル者ガ平病デ死ンダト云フ場合ニハ此範疇ノ中ニ入ル譯デアリマス、サウ致シマス増加恩給ヲ持ッテ居タ平病死者ト、持タナイ平病死者トノ懸隔ガ餘リニ甚シク付クト云フコトモ、ソレハ全般的ニ考ヘテ餘程考慮ヲ要スル問題ダト考ヘマシタノデ、此増額ヲ此程度ニ止メタノデアリマス、若シ全般的ノコトカラ申シマスナラバ、一般ノ遺族扶助料ニ付キマシテモ、年額七十五圓ト云フヤウナ額ハ、少イデハナイカト云フ議論モ起ルノデハナイカ、サウ致シマシタナラバ此増額ハ限リノナイコトニナリマシテ、將來ノ國ノ負擔ヲ考ヘマスト、一概ニ之ヲサウ飛躍ノニ上ゲルト云フコトモ穩カデナイ、大體此程度ニ止メテ置イタ方ガ適當ナリト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○江藤委員 重症者ト輕症者ト同額ニセラレタ理由ヲ御説明願ヒタイ

○高木政府委員 増加恩給ヲ貰ッテ居リマス者ノ立場カラ申シマスレバ、重症ト輕症トノ區別ハアルト思フノデアリマスガ、是ハ受給者自身ガ醫療介護其他ノ費用ヲ要シマスル爲ニ増額ヲシテ居ルノデアリマシテ、其中ノ或ル部分ガ扶助料ナルベキ部分デアルト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、隨テ増加恩給ノ症項ガ高イガ爲ニ、其家族ニ餘計ニ扶助料ヲ支給シナケレバナラスト云フコトハ出テ來ナイト思フノデアリマス、此點ハ私共考ヘテ居リマスノハ、扶助料トカ増加恩給、一般ノ恩給ト云フモノガ、優遇トカ慰勞トカ云フヤウナ意味ヲ含シデ居ルノデアリマセズデ、其人自身ヲ優遇スル方法デアリマスガ、ソレ自體ガ優遇ダトハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、ソレデゴザイマスカラ増加恩給受給者ノ高症者ヲ優遇スルト申シマスガ、其優遇スルト云フ意味ハ其方ニ餘計ニ金ヲ與ヘテ十分ナ醫療介護ヲセシムルト云フ意味デアリマシテ、恩賞トカ慰勞トカ云フ觀念ハ此中ニ入ッテ居ラナイノデアリマス

○江藤委員 アナタノ說デ申シマス、戦死者ト病死者トノ區別ヲスル理由ガナクナルト私ハ思フノデアリマス、戦死者ハ全額貰フ、病死者ハ八割貰フ、遺族ハ同ジナノ

デス、病死ヲシテ居ッテモ、戦死ヲシテ居ッテモ、遺族ノ被ル精神的物質的ノ損害ハ少シモ變リハシナイ、併ナガラソレガ戦死デアル爲ニ遺族ニ迄ソレガ及ンデ遺族ガ優遇サレル、痾傷軍人デアルト云フノデ其中間ノ六割ヲ上ゲテオ居デニナルノデセウ、其意味ヲ敷衍シテ行キマス、其戦死ニ近イヤウナ重症者、其遺族ニ餘計ヤルト云フコトハ必シモ私ハ不當デナイト思ヒマスガ如何デスカ

○高木政府委員 沿革カラ申シマス、從來ハズツト以前ニ於テ其區別ガナクツノデゴザイマス、平病死者ニ對シテ遺族扶助料ヲ與ヘルト云フコトハ、恩給制度ト致シマシテハ、ズツト後ノ問題デアリマシテ、過去ノ沿革カラ申シマスレバ、國家ノ犠牲ニナツテ戦死シタ者、病歿シタ者、ソレニ扶助料ヲ與ヘルト云フコトニナツタノデアリマス、ソレハ平病死者ト、戦死者ト、公務病死者トノ間ノ區分モ、或時代ニ於テハ同一ニ扱ハレテ居ッタコトモアルノデアリマス、サウ云フ點カラ申シマス、私共ハ理論トシテハ其方ガ正シイノデヤナイカト云フ風ニ考ヘテ居ル、唯其後ニ於キマシテ、色々感情ノ問題ガ入りマシテ、現ニ議會等ニ反映シテ居リマス議論ニ於キマシテモ、戦地ニ於

テ死ンダ者ヲ優遇シロ、内地ヘ歸ッタ者ヨリモ戦地デ死ンダ者ノ方ヲ優遇シロト云フヤウナ議論ガ行ハレルノデゴザイマスケレドモ、是ハ私共ハドツチカト申シマス、一種ノ感情論デアッデ、純理論デハナイヤウニ考ヘテ居リマス、制度ノ沿革上斯ウ云フコトニナツテ居リマスカラ、甲號ト乙號トノ區分ヲ致シテ居リマスガ、實際問題ト致シマシテ、私共ハ裁定致シマス場合ニ可ナリ困難ヲ感ズル場合ガ往々ニシテアルノデアリマス、ソコニヤハリ純理論ト感情論トノ矛盾ガアルヤウニ私ハ考ヘテ居リマス

○江藤委員 純理論ト感情論ト矛盾ガアルコトハ同感デアリマス、デアリマスガ實際問題ト致シマシテ、重症者ノ遺族ヲ宜クシテ、輕症者ノ遺族ヲソレニ比較シテ惡クスルト云フコトハ、純理カラ申シマシテモ、又感情カラ申シマシテモ、是ハ何等ソコニ異論ノ餘地ハナイト思フノデアリマスルガ、其點ニ付テ、政府當局ト私共トハ意見ガ違ヒマス、尙ホアナタハ普通恩給ノ七十五圓、是モ少イデヤナイカ、ソレモ殖ヤセト云フコトニナツテ際限ガナイト云フコトヲ先刻仰セニナリマシタガ、ソレハ問題外デアリマセスカ、是ハ普通文官ガ六十マデモ、七十マデモ勤メテ、サウシテ死ン

デカラ其恩給ノ半額ヲ貰フト、ソシテ今議論シテ居ルノデハナイノデアリマシテ、或ハソレハモット減ラシテモ宜イト云フ

テドウ御考ニナリマスカ、尙ホ一應承リタ

ソコニアルト考ヘマス、増加恩給ノ部分ハ其受給者自身ノ傷痍トカ、疾病トカノ大小ニ依ッテ違ヒマスガ、普通恩給ノ部分ニ於テハ變リガナイノデアリマス、ヤハリ其遺族ノ場合ニ於テモ同様ニ其部分ニ於テハ變リガナイト云フコトハ、何等矛盾スル所ガナイヤウニ私ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ實際問題ト致シマシテ此額デ十分デアルカト云フコトニナリマス、私共必シモ十分ダトハ考ヘナイ、併ナガラ其點ハ先程ノ戰死者遺族、公務死者遺族ニ付テモ同様デアリマシテ、サウ云フ遺族ヲ成ベク働カセマシテ、其働ト併セテ完全ナル扶助ヲ行ッテ行ク、扶助料ノミヲ以テ行フト云フコトハ國家財政ノ立場カラ考ヘマシテ、是以上ハ無理デヤナイカト思フノデアリマス

積リデ今日マデ經過シテ參ッタノデアリマスガ、他ノ法案ノ審議其他ニ付テ、或ハ又公務上ノ差支デ、或ハ出席スルコトガ非常ニ遲延スルカトモ思ハレルノデアリマス、傍々致シマシテ軍トシテノ御質問ニ對スル綜合的御答辯トシテ申上ゲテ置イタガ、御審議上便宜デナイカト存ジマシテ、玆ニ軍トシテノ意見ヲ申上ゲテ置キタイト存ジマス、恩給委員會ニ於ケル委員諸君ノ質問ニ對シマシテ、陸軍ノ綜合的所見トシテ申上ゲマス

云フ議論ガ起ラストモ限ラヌ、減ラスト云フコトハ別問題トシマシテモ、其方法トシテ積立金制度ガ宜イトカ、保險制度ガ宜イトカ云フ議論ガ起ラストモ限ラヌノデアリマシテ、ソレハ別問題デアリマス、今論ジテ居ルノハ、戰病死者竝ニ傷痍軍人ノ遺族扶助料ノコトデアリマシテ、其遺族扶助料ガ實際問題ト致シマシテ、現ニ一年千三百二十圓貰ッテ、サウシテ夫婦暮シテ居ッタ者ガ、其亭主ガ死ンデシマッタト云フノデ、一遍ニソレガ百六十二圓ニ減ル、斯ウ云フコトガ實際問題ト致シマシテ甚ダ遺憾ヲ感ズルノデアリマシテ、折角アトヲ宜クシテヤラウト云フ御意思ガアルナラバ、ヤハリ重症者ト輕症者トヲ區別シテ、實際ニ即スルヤウナ——唯机ノ上デ戰死者ガ全額デ、公死者ガ八割デカラ、傷痍軍人ノ遺族ハマア其中間ノ六割位デ宜カラウト云フヤウナ、簡單ナ考デ之ヲ御制定ニナッタノデハナイカト云フコトヲ非常ニ私ハ心配致シマス、ヤハリ實際ニ即スルヤウナ方法ヲ御制定ニナリマセスト、此改正案デハ非常ナ重症者ノ遺族ト云フモノハ嘆キガ堪ヘナイ、其點ニ付

○高木政府委員 前段ノ方ノ問題デゴザイマスガ、普通恩給カラ扶助料ニ轉給シタモノト、増加恩給カラ轉給シタモノト關係ガナイト云フ御話デゴザイマスガ、純理論トシテハサウ考ヘテ居リマセス、普通恩給受給者ト雖モ理論的ニ考ヘレバ一定ノ年月ノ間ニ獲得能力ヲ喪失シタト云フコトニナル、増加恩給ノ受給者ノ方ハ、ソレガ時間的ニ短クシテ恩給ニ達シタト云フ考方デゴザイマスカラ、唯文官等ヲ例ヲ御取リニナルトサウ云フコトニナルト思ヒマスガ、軍人ニ於テ考ヘレバ、同ジヤウナ問題ガ軍人ノ相互ノ間ニ於テ必ズ起リ得ルト考ヘラレル、一定年限在職シマシテ、其爲ニ獲得能力ヲ喪失シテシマッタ、普通恩給ヲ受ケテ居ル者ノ遺族ニ扶助料ヲ給スルト云フ考方ハ、ヤハリ増加恩給ヲ貰ッテ居ル者ノ遺族ニ扶助料ヲ給スルト云フコトト、根本ノ考方ニ於テハ相違ハナイト思ヒマス、ソレデゴザイマスカラ私共ノ考ヘテ居リマスノハ、傷痍恩給ト申シマスカ、只今ノサウ云フ名稱ハアリマセスガ、傷痍ヲ受ケタルコトニ依ッテ給セラレル恩給ヲ、増加恩給ノ部分ト普通恩給ノ部分ト截然區別致シマシタノハ

○江藤委員 マダ大分ゴザイマス

恩給法中改正法律案ニ關聯スル事項、一、今回改正セラレントスル本法案中特ニ遺族扶助料ノ増率不徹底ナリトノ意見ガゴザイマシタガ、各般ノ情勢上差當リヨリ以上ノ増加ガ困難ナリト思料致シマスカラ、此不足ハ厚生省ト協力致シマシテ、諸施設ノ實現ヲ督促援助ヲ致シマシテ、之ヲ補フコトトシ、本法案ノ全般ヲ通ジ陸軍トシテハ満足ノ意ヲ表スルモノデアリマス

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

更ニ扶助料竝ニ増加恩給ノ増率ハ上ニ薄ク下ニ厚クシ、重傷者優遇ノ實ヲ擧ゲ得タルモノト認メマス、新設第七項ノ額ハ過少ノ感ハアリマスケレドモ、傷病年金トノ段階ヲナガラカナラシムル見地ヨリ適當ナルモノト信ジマス

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

更ニ扶助料竝ニ増加恩給ノ増率ハ上ニ薄ク下ニ厚クシ、重傷者優遇ノ實ヲ擧ゲ得タルモノト認メマス、新設第七項ノ額ハ過少ノ感ハアリマスケレドモ、傷病年金トノ段階ヲナガラカナラシムル見地ヨリ適當ナルモノト信ジマス

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

更ニ扶助料竝ニ増加恩給ノ増率ハ上ニ薄ク下ニ厚クシ、重傷者優遇ノ實ヲ擧ゲ得タルモノト認メマス、新設第七項ノ額ハ過少ノ感ハアリマスケレドモ、傷病年金トノ段階ヲナガラカナラシムル見地ヨリ適當ナルモノト信ジマス

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

○前田委員長 江藤君マダ長ウゴザイマスカ

更ニ扶助料竝ニ増加恩給ノ増率ハ上ニ薄ク下ニ厚クシ、重傷者優遇ノ實ヲ擧ゲ得タルモノト認メマス、新設第七項ノ額ハ過少ノ感ハアリマスケレドモ、傷病年金トノ段階ヲナガラカナラシムル見地ヨリ適當ナルモノト信ジマス

二、傷病年金ハ右ト同一趣旨ニ依リマシテ増加恩給ノ増率ニ順應シ増加セラレタルモノデアリマス

三、傷病賜金額ハ直接ノ増加ナキモ、第一、第二目ヲ傷病年金ニ繰上ゲタルコトニ依リマシテ、有期恩給ニ裁定セラレタルモノトノ不均衡ヲ緩和シ得タルモノト認メマス

ソレカラニデアリマス、特別賜金ヲ増加スベシトノ議ガアリマスルガ、之ヲ増加致シマスルト、動トモスレバ諸種ノ情弊ヲ釀成致シ易キヲ以チマシテ、遺族ノ恆久的生活保障ヲ顧念致シマシテ、物質以外ノ諸施設ニ萬全ヲ期セントスルモノデアリマス、又傷病軍人ノ待遇ニ比シ遺族ノ待遇足ラズトノ議ガアリマスガ、前述諸施設ノ活用ニ依リマシテ遺漏ナキヲ期セントスルモノデアリマス

次ニ恩給金庫法案ニ對シマシテノ事項ヲ申述ベマス、一、遺族傷病軍人等ノ扶助施設強化ノ爲メ、是ガ設立ハ陸軍ト致シマシテ要望スル所デアリマス、二、金庫法ノ内容ニ關シマシテハ、關知スル所デアリマセスケレドモ、軍人後援會等直接陸軍ノ監督下ニアリマスル軍人後援團體ハ、從來扶助後援ノ爲ニ大ナル力トナッテ居ルコトニ

鑑ミマシテ、是等團體ノ事業ヲ保護スルコトニ付キマシテハ、最重要視スル所デアリマシテ、金庫ノ設立ニ伴ヒマシテ、是ガ善處方ニ關シテ當局ニ要望致シテ居リマス、他ノ一般金融機關ニ對スル處置ニ付キマシテハ、陸軍カラ直接申上ゲルコトデハアリマセヌ、是ダケデアリマス

○前田委員長 私カラ一寸御尋申上ゲタイト思ヒマス、陸軍省條例ニ依リマスル戰死者ニ對スル賜金ノ問題デアリマスガ、アノ賜金ハモウ少シ遺族ノ生活ノ實情ニ重點ヲ置イテ支給サレル必要ガアリト考ヘマスルガ、之ニ對スル御所見ヲ伺ッテ置キマス

○加藤政府委員 先程江藤君ト政府委員トノ間ニ質疑應答ガアリマシタ、其時ニ政府委員カラ申上ゲタ通りノ事情デアリマスガ、軍トシテハ又増加ノコトニ關シマシテ、ソレゾレ先規ガアルノデアリマス、今御質問ノ生活ノ實情ニ即シテト云フコトニ付テハ、ソレゾレノ調査研究ガアルト思ヒマス、今申上ゲマシタ通り諸種ノ事情カラ致シマシテ、此邊デ満足スルシカ致方ガナイト云フコトニナッテ、今日此成案ヲ得タノデアリマス、財政上他省トノ關係ヲ考慮セズシテ、唯一途ニ遺族ノコトノミヲ顧念致シマスルト、又他ニ意見モアルノデアリマスガ、綜

合的國策トシテ玆ニ提案シテ現レテ參リマシタモノハ、諸種ノ事情モアルノデアリマスカラ、軍トシテハ是デ満足スルノデアリマス、満足セザルヲ得ナイノデアリマス

○前田委員長 坂東幸太郎君ヨリ議事進行ニ關シ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス

○坂東委員 過日來委員側カラ要求シタ資料ニ付テ其提供ヲ拒マレタ點ガアリマスガ、其中ノ一部分ハ出テ居リマス、併シ委員ガ要求シタ資料ヲ政府ガ提出セズニ濟ムカ濟マヌカト云フコトニ付テハ、委員諸君ト相談シテカラ改メテ申上ゲルコトニ致シマスガ、政府委員ノ答辯ヲ聽イテ居リマスルト、之ニ對スル誤解ノ點ガアルラシイ、例ヘバ恩給受給者ガ刑ヲ受ケタト云フヤウナコトニ付テモ、政府當局ハ誤解ガアルト思フ、ソコデ私ハ其實例ヲ玆ニ申上ゲテ、委員會ノ審議ノ徹底ヲ圖リタイト思フノデアリマス、ソレハ金鵄勳章年金證書ヲ擔保トシテ金ヲ借りタ者ガ刑ヲ受ケタ實例デアリマス、其人ノ借入金ハ五百七十五圓、金鵄勳章年金一年百五十圓ヲ三箇年半分借用シタノデアリマス、右ノ中三年分即チ四百五十圓ヲ辨濟シテ、尙ホ利子及ビ殘金ヲ加ヘテ百二十餘圓ノ殘金アルモノヲ、本人ハ他ヨリ

借入レテ其百二十餘圓ヲ返濟スルト稱シテ債權者ヨリ右年金證書ヲ借りテ他ヨリ又三年分ノ借用ヲ爲シタルニモ拘ラズ、前債權者ニ返濟セザル爲ニ、前債權者ハ殘金百二十餘圓ヲ詐僞セラレタリト稱シ、詐僞ノ告訴ヲ爲シ、被告ハ懲役六箇月ヲ言渡サレ、但シ刑ノ執行猶豫五箇年ノ言渡シヲ受ケタノデアリマス、是ハ埼玉縣川越區裁判所ニ於テ行ハレタ判決デ、昭和十一年八月十一日デアリマス、被告ハ陸軍歩兵上等兵、債權者ハ何某、是ガ實例デアリマス

更ニ申上ゲマスガ、是ハ最近ノ問題デス、恩給局ガ再交付ラシタ結果、債權者ガ損ラシタ、其債權者ガ告訴ラシタノデス、是ハ東京區裁判所ノ檢事局ノ召喚狀デアリマスガ、日ハ二月二十五日午前九時、當局ニ出頭相成度候「トアリマス、用件ハ「鈴木寅治ニ對スル告訴ノ件」トアリマシテ、是ハ前ニ二人ノ對質訊問ガアッタ、主任檢事ノ名前モアリマスガ、略シテ置キマス、内容ハ今言ヒマセヌガ、兎ニ角檢事ハ恩給問題ニ對シテ相當ニ深い考ヲ以テ色々訊問シタサウデス、尙ホ一寸申上ゲマスガ、鈴木寅治ト云フ人ハ元警察ノ署長ナノデス、是ガ千三百圓ノ證書ヲ入レテ置キナガラ、百圓シカ貰ッテ居ラスト言ッテ、ソコデ檢事ハ、ソレ

ハ君ハ怪カラヌ、千三百圓ノ證書ヲ入レテ百圓ト云フ譯ハナイ、君ハ警察ノ署長ヲシタ人間デアルト言ッテ大イニ叱ラレタ、併シ其實ハ千百餘圓ト云フ借金ガアッテ、其上ニ又百圓程借リタノデアリマシテ、全ク淺マシイ事實ガ暴露サレタノデアリマス、ソレデ第二回ノ召喚ガ確カ明日カ明後日アル筈デアリマス、此ヤウニ恩給局ガ證書ヲ再交付シタ結果債權者ガ損ヲスル、其反面ニ欺イテ金ヲ借リタト云フ意味ニ依ッテ、告訴事件ガ頻々ト起ルモノデアルト云フコトヲ十分御承知ナケレバナラス、斯ウ云フ事件ガ澤山出テ參リマスルナラバ、或ハ恩給局ノ方々モ參考人トシテ出ナケレバナラス場合ガアルカモ知レナイ、私ソレヲ非常ニ憂ヘマス、此場合ハソレダケヲ中上ゲテ置キマス

○前田委員長 是ニテ休憩致シ、午後二時ヨリ再開致シマス

午後零時二十一分休憩
午後三時二十五分開議

○前田委員長 休憩前ニ引續キ委員會ヲ開キマス、恩給證書再交付ノ件ニ關シ高木政府委員ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス——
高木政府委員

○高木政府委員 先般ノ委員會ニ於キマシ

テ、恩給證書ノ再交付ニ關聯シマシテ、坂東サンカラ御尋ガアリマシタ、其終ニ御舉ゲニナリマシタ事例ノ中デ、某陸軍ノ大佐ノ夫人デ借用證書三千圓カラノ借用ヲシテ、僅カ六百圓餘リヲ返シタノミデ、再度證書交付ノ請求ヲシタ、ソレデ其間ニ妥協ガ成立ッテ、再度證書ノ下附ノ取下ノ要求ガアツタニモ拘ラズ、恩給局カラ再度證書ヲ交付シタ爲ニ踏倒サレタト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、取調べマシタ所ガ、多少事實ニ相違ガアリマスルガ、大體ソレト思ハレルヤウナモノガアルノデアリマス、其點ニ付キマシテ一應參考ノ爲ニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、實ハ其取調べマシタ件ハ恩給擔保ノ金融業者ト致シマシテモ、最も惡辣ナモノト考ヘラレマス東京在住ノ某金融業者デアリマシテ、此金融業者ニ付テハ、或ハ坂東サンハ御承知ガナイノデ、ドウ云フ方面カラ其材料ヲ御取リニナリマシタカ存ジマセヌガ、是ハ東京ニ於テモ著明ナ金融業者デ、或ル時ハ四谷區ニ住所ヲ置キ、或ル時ハ京橋區ニ住所ヲ置キ、或ル時ハ北海道ニ住所ヲ置クト云フヤウニ、各地ニ其住所ヲ持ッテ居リマシテ、殆ド其方面ニ於テハ業者トシテ知ラナイ者ハナイト云フヤウナ有名ナ金融業者デアリマス、サウ致シ

マシテ、只今問題ニナッテ居リマス件ニ付キマシテ、大體サウダラウト思ハレマスノハ、陸軍ノ歩兵中佐ノ未亡人デアリマシテ、是ハ從來ズツト自分ノ扶助料ヲ擔保トシテ金ヲ借リテ居ッタラシイノデアリマス、只今問題トナリマシタ擔保業者トノ交渉ハ、第一回ニ於テハ昭和十年ノ五月、額面二千百七十七圓五十錢ト云フモノヲ借リテ、ソレニ對シマス手数料、利子、保険料等五百二十三圓五十錢ヲ差引カレマシテ、手取リトシテ受取ツタノハ千六百五十四圓デアル、其後ニ第二回ニ昭和十一年ノ十二月ニ追借ヲ致シマシテ、借用證書ノ額面ヲ三千圓ニ書替ヘ、其時ニ手数料、利子ト致シマシテ三百十二圓ヲ差引カレマシテ、手取リハ僅カニ百二十五圓ヲ受取ツタニ過ナカッタ、更ニ第三回ト致シマシテ、昭和十二年ノ四月ニ別口借用トシマシテ、是ハ擔保ト云フ意味デナク、證書額面百三十圓、ソレニ對シ手数料、利子四十圓ヲ引カレマシテ九十圓ノ手取リニナッテ居ル、此内容ヲ御覽下サイマスレバ、如何ニ此金融業者ガ惡質ノ者デアルカト云フコトハ、御分リニナルト思フノデアリマス、サウ致シマシテ、結局ソレ等ノ手取ノ金額ヲ合計致シマス、ソレガ千八百六十九圓ニナリマス、ソレニ對シマシテ貯金局

カラ昭和十一年ノ七月カラ昭和十二年ノ十二月マデニ渡シマシタ額ハ千三百六圓五十錢デアリマシテ、結局殘金五百六十二圓五十錢ト云フコトニ、元本ト致シテハナル、サウ致シマシテ餘リニ其手数料其他ノ率ガ高イト云フノデ、本人カラ交渉致シマシタガ、中々應ジナイ、其爲ニ恩給局ニ對シマシテ再度證書ノ交付ヲ請求致シタノデアリマス、其本人ノ言フ所ニ依リマス、無論自分ハソレヲ倒ス積リデハナイ、唯自分モ獨リデアッテ困ッテ居ル、殊ニ子供ガアルガ、マダ就職シテ居ラナイ、子供ガ就職スルコトニナレバ速ニ返金スルカラ、何トカ妥協ヲシテ呉レト云フコトヲ申立デマシタガ、ソレニ對シテ應ジナカッタ、兎モ角證書ガ還ッテ來ナイカラト云フコトデ、請求ガアツタノデス、恩給局ニ於テ取調中ニ、本人カラ昭和十一年十二月十七日、三千圓立替ヲ受ケテ、現在殘リガ二千六百五十六圓ニナッテ居ル、今般相互懇談ノ上デ圓滿ニ示談シタカラ、再交付ノ必要ガナイノデ、取消シテ呉レト云フ再交付申請書ノ取下願ヲ出シテ參ツタ、恩給局ト致シマシテハ、其取下願ガ眞實デアルカドウカト云フコトヲ調査致シマス爲ニ、本人ヲ呼出シテ調査致シマシタ所ガ、本人ハ自分ハ妥協スル意思ハナイ、債

權者ノ強制ニ依ッテ提出シタモノダカラ、取
消願ハ取消シテ吳レト云フコトヲ申立テ
タ、是ハ從來アル例デアリマスカラシテ、
動トモ致シマス、業者ノ方カラ致シマシ
テ、債務者ニ強制的ニヤラセル、又印鑑ヲ
變更スルト云フヤウナコトモ平氣で行ハレ
ルノデアリマシテ、サウ云フヤウナ惡辣ナ
事例ニ對シテハ、已ムヲ得マセヌノデ、恩
給局ト致シマシテハ、證書ノ再交付ヲ許シ
テ居リマス、ソレカラ尙ホ序デニ御手許ニ
多分差上ゲタト思フノデアリマスガ、三四
ノ例ニ付キマシテ、顯著ナモノダケヲ御覽
ニ入レタノデアリマスガ、其一ツノ例ト致
シマシテハ、明治四十三年十月ニ證書ノ委
託ヲ致シマシテ、昭和六年三月マデ何等受
取ッテ居ラナイト云フ例ガアルノデアリマ
ス、是ガ先般申シマシタ三十年以上モ手許
ニ戻ラナカタ例デアリマス、此例ニ依ッテ
見マス、丁度貯金局カラ支給サレマシタ
總計ノ額ハ七千十圓ニナリ、サウ致シマシ
テ本人ノ手取ニナリマシタ額ノ總額ヲ見マ
スト、二千二百三十六圓ト云フコトニナッテ
居リマシテ、如何ニ弊害ガ甚シイカト云フ
コトノ一例ニナルト考ヘラレマス、此例ノ
場合ハ、大正十二年ノ更正證書ハ本人ノ手
ニ渡スベキデアルニ拘ラズ、何等カノ手段

ヲ講ジタモノト見エマシテ、債權者ガ入
手ヲ致シテ居ル例デアリマス、ソレカラ他
ニ二ツ程例ヲ御覽ニ入レタノデスガ、一ツ
ノ例ハ宮崎縣居住ノ者デアリマシテ、恩給
年額六百六十圓、之ニ對シテ昭和八年八月
ニ二千七百圓ヲ借用シマシテ、其手數料、
利息雜費ガ八百三十五圓、手取ガ千八百六
十五圓ト云フ、甚シイ一ツノ例デアリマ
ス、此者ニ依リマシテハ、其後本人カラ裁
判ヲ起シマシテ、大審院ノ判決ヲ受ケテ、
證書ノ返還ヲ求メテ強制執行ヲ致シマシタ
ケレドモ、到頭證書ガ手許ニ戻ラナカタ
ト云フ一ツノ例デアリマス、モウ一ツ出シ
テ居リマスノハ、是モ福岡ニ居リマス著名
ナ金融業者デアリマシテ、借用額面千九百
圓ニ對シテ手數料其他ガ六百六十圓、手取
ハ千二百圓ト云ツタヤウナ例ナノデアリマ
ス、是ハホンノ一二ノ例ヲ拾ッタニ過ギマセ
ヌノデ恩給局ニ於テ再交付致シマシタ從來
ノ例ノ中カラ拾ッタナラバ、マダ〱非常ニ
數ガ多イト思ヒマス、殊ニ先程申シマシタ
東京市ニ於ケル渡邊某ノ關係ノモノノ如キ
ハ、非常ニ多イノデアリマシテ、私共ハサ
ウ云フヤウナ弊害ヲ防グ爲ニ此金庫ガドウ
シテモ必要デアルト云フ風ニ考ヘラレルノ
デアリマス、多分此點ニ付キマシテハ、坂

東委員ハ内容ヲ能ク御承知ナイノデ、先般

ノ御質問ガアツタコトト考ヘルノデアリマ
スガ、念ノ爲ニ私カラ申上ゲテ置キマス

○前田委員長 坂東君、議事進行デスカ

○坂東委員 左様デス……只今恩給局長ノ

申サレタ例ハ少シ違フノデス、ソレハ二十
六日ノ速記録ヲ御覽下サレバ分リマスカ
ラ、ドウゾ御覽ヲ願ヒマス、尙ホ只今申サ
レマシタノハ、澤山ノ中ノ二三ノ最モ惡辣
ナ例デアリマシテ、吾々ハ惡辣ナ者ヲ保護セ
ヨト言フノデモ何デモアリマセヌ、詰リアナ
タガ説明サレタ如ク、四百三十件既ニ再交付
ラシタ以上ハ、内容ハドンナモノデアルカト
云フコトヲ知ランガ爲ニ、其參考資料ノ提出
ヲ要求シタノデス、然ルニアナタガ今申シマ
スルノハ、再交付申請五千餘件カラ故ラニ引
出シテ來タ惡辣ナ例デアル、今ノアナタノ御
話ノ中デモ金融業者ト「ブローカー」ラゴツチ
ヤニシテ居ルカラ困ルノデス、今例ニ舉ゲ
ラレタ人ハ私ハ調べマス、サウシテ私ハ事實
ヲ申上ゲマス、私ノ想像デハ、其人ハ多少分ッ
テ居リマスガ、其人ハ再交付ノ「ブローカー」
ニ現在ハナッテ居ル、サウシテ之ヲ新聞ニ廣
告ラシテ居ル、ソレカラ再交付申請ノ運動ニ
澤山手數料ヲ取ッテ居ルノデアリマス、其契
約ノ中ニハ、再交付ガ成功シタナラバ、何割

カラ支給何期分カラ貰フ内約ヲシテヤッテ
居ル筈デアル、尙ホ全國的ニ再交付運動ノ
「ブローカー」ガ澤山出來テ居ル、東京バカ
リデハアリマセヌ、北海道ニモ、九州ニモ
アル、サウ云フコトヲ私ハ言ッテ居ルノデ
ス、故ニ私共ハ此再交付ヲサレマシタ所ノ
四百三十件ノ其内容ヲ知ラナケレバナラ
ヌ、單ニ惡イ方面ダケヲ見テ、サウシテ無
辜ノ債權者ヲ害シテシマフヤウナ片手落ハ
出來ナイノデアリマス、サウ云フ虞ガアリ
マスルカラ申上ゲタダケデアリマス、尙ホ
序デニ今ノアナタノ説明ニ對シマシテ、私
ノ方カラモ茲ニ參考資料ヲ提出シテ置キマ
ス、後カラ委員長ノ許可ヲ得テ速記録ニ載
セテ載キマスガ、其中一ツダケヲ申上ゲマ
ス、再交付中デ最モ大キナ被害ノ實例「元
海軍大佐何々ハ自己ノ恩給年額二千二十二
圓ヲ以テ高知縣長岡郡十市村、北村寅雄ヨ
リ五ヶ年分一万餘圓ヲ借り現在殘金八千圓
アルニモ拘ラズ勅令發布後證書ノ再交付ヲ
受ケタ」是ハ昨年ノ十二月デアリマス、又
「元文官何某ハ恩給年額二千八百八十四圓ノ恩
給證書ヲ以テ宇都宮市塚本肥料店ヨリ四箇
年分八千餘圓ヲ借り受ケ殘金七千圓アルニ
モ拘ラズ本年一月再交付ヲ受ケ、之亦不當
極マル借金踏倒ラシタル者ナリ」其外ハ速

記録ニ掲載ヲ願ヒマス

○前田委員長 宜シウゴザイマス——江藤源九郎君

○江藤委員 先刻恩給局長カラ殘存能力ニ付テノ御説明ガアリマシタガ、ソレハ私モ能ク承知致シテ居リマス、御同感デアリマス、唯問題ハ恩給ヲ受ケテ居ル者ノ殘存能力ト云フコトヨリモ、遺族ヲ如何ニスルカト云フコトガ問題ニナツテ居ルノデアリマシテ、戦死者或ハ戦地ニ於ケル病死者、或ハ傷痍軍人ノ遺族、或ハ普通ノ公務員ノ遺族、是等ノ扶助料ガ皆各其本人ノ狀況ニ依ツテ變テ居ルノデアリマス、其變リ方ヲ今研究シテ居ルノデアリマシテ、戦死者ニ對シテハ全額、病死者ニ對シテハ八割、傷痍軍人ノ遺族ニ對シテハ六割、普通ノ公務員ニ對シテハ五割、斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、其六割ト云フコトヲ御認メニナツテ居ルノハ、ヤハリ傷痍軍人デアアルカラ普通ノ公務員ノ病死シタ場合ヨリハ若干多クヤルコトガ必要ダト云フコトヲ御認メニナツテ居ルダラウト思ヒマス、其傷痍軍人デアアルト云フコトヲ御認メニナツテ居ル以上ハ、即チ傷痍軍人ノ、重傷者デアアルト云フコトヲ一律ニ御認メニナツテ居ラナイ理由ガ私ニハ分ラヌノデアリマスカラ、尙ホ一言其理由ヲ伺ヒ

タイノデアリマス

○高木政府委員 此點ニ付テハ午前ニモ申上ゲマシタト思ヒマスガ、増加恩給ノ額ニ付テ一項乃至七項ニ今回分ケマシテ、其症候ニ應ズル金額ヲ重傷者ニ厚ク、下ニ厚クト云フ方針デ立テマシタノデアリマスガ、ソレハ増加恩給ノ問題デアリマシテ、増加恩給ト普通恩給トハ其爲ニ實ハ區分ヲ致シテ居ル譯デアリマス、扶助料ノ方ハ増加恩給ヲ規準ト致シマセヌデ、普通恩給ヲ規準ト致シマシテ、普通恩給ノドレダケヲ給與スルカト云フコトニナルノデアリマスカラ、増加恩給ヲ餘計貫ツテ居ルカラシテ、ソレニ扶助料モ餘計ニナルト云フコトニハナラナイノデアリマス、結局普通恩給ト云フモノガ、生活ト云フコトカラ考ヘマシテ、ソレガ大體基準ニナルベキモノデアツテ、増加恩給ヲ受ケルヤウナ受給者ニ於キマシテハ、其醫療救護其他ノ關係カラ見テ當該本人ニ限ツテ増額サレルノガ増加恩給デアリマス

○江藤委員 私人言フコトガマダ政府委員ニ徹底シテ居ラヌノデヤナイカと思フノデアリマス、傷痍軍人ノ遺族デアアルカラ普通ノ公務員ノ遺族扶助料ヨリモ餘計ニヤルト云フコトハ、本人ガ傷痍軍人デアアルト云フ意味ニ於テ餘計ニオヤリニナルノダラウト

思ヒマスガ、サウデヤアリマセヌカ

○高木政府委員 御説ノ通りデアリマス

○江藤委員 サウ致シマススト其傷痍軍人ノ傷痍ノ程度ガ違ヘバ、其違フコトニ依ツテオヤリニナルコトガ私ハ適切ダラウト斯ウ思フノデアリマス、ソレヲ私ハ御尋シテ居ルノデアリマス

○高木政府委員 其點ハ只今申シマシタヤウニ傷痍ノ程度ニ應ジテ増額致シマスノハ、増加恩給デアリマシテ、扶助料ト云フ立前カラ考ヘマスレバ、其附隨シテ行キマス所ノ普通恩給ヲ基準トスベキダト思ヒマス

○江藤委員 是以上ハ議論ニナリマスカラ私申シマセヌ、唯今ノ御説明デハ私ハ承服ガ出来マセヌコトダケ申上ゲテ置キマス、次ニ増加恩給ノ事ニ付テ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、今回ノ改正ニ依リマシテ大體今御説明ノヤウナ御趣旨ニナツテ居ルヤウデアリマス、唯一款ヲ第七項ニオ舉ゲニナリマシテ、其二款、三款、四款ト云フモノガ増加恩給ニナツテ居ラヌノデアリマスルガ、前ノ明治二十六年二月ノ陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ニ關スル件、之ニ依リマススト四款迄ハ兵役免除ニナルト云フコトガ書イテアルヤウデアリマスガ、サウデアリマスカ

○高木政府委員 只今手許ニ其書類ヲ持ッ

テ居リマセヌノデハッキリ申上ゲルコトガ出来ナイノデアリマスガ、私共先日申上ゲマシタヤウニ、兵役免除或ハ豫備役、後備役等ノ各役免除ト云フコトト、恩給トハ必シモ直接ノ關係ハ無イモノト考ヘテ居リマス

○江藤委員 ソレハ私一寸考ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、兵役ヲ免除サレルト云フコトハ、國民兵ニモ役ニ立タヌト云フヤウナ其人ノ體質ニナルコトデアリマシテ、唯指ガ缺ケテ居ルトカ、齒ガ缺ケテ居ルトカ云フコトモサウデアリマスガ、一般ノ病氣トカ内患關係カラ申シマスルト、國民兵役ニモ堪ヘラヌト云フ人ハ、相當生活ノ上ニ打撃ヲ受ケルモノダラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ恩給ト兵役トハ關係ガナイト言ハレマスケレドモ、事實問題トシテハ兵役ヲ免除サレルト云フノハ身體ガ惡イカラ免除サレルノデアリマシテ、ソレガ國民兵役ニモ堪ヘラレナイ程ニナツテ居ルノデアリマスカラ、是等ニハ増加恩給ヲ給セラレルノガ適當ダと思フノデアリマスカ、御意見如何デアリマスカ

○高木政府委員 其點ハ寧ロ陸軍側カラ御答願フ方ガ宜イト思ヒマスケレドモ、私共ノ見ル所ニ依ルト兵役ヲ免除サレルト云フ

コトハ、兵隊トシテ適當ニアラスト云フコトダト思ヒマス、軍人トシテノ能力カラ言ッテ適當デナイ者ニ對シテ、或ル程度ノ兵役ヲ免除スルト云フコトニナルノデアリマシテ、ソレハ必シモ一般ノ獲得能力ト云フモノトハ關係ガ無イト思フノデアリマス、殊ニ下士以下ノ軍人ニ付テ考ヘマスレバ、下士以下ノ軍人ハソレガ職業デハナイノデアリマシテ、他ニソレノ職業ヲ持ッテ居

ルノデアリマスカラ、兵隊トシテハ適任デナイトシテモ、他ノ職業ニハ尙ホ適性ヲ持ッテ居ルト云フ場合ガアルト考ヘマス、又其方ガ多イノデハナイカト云フヤウニ考ヘル

○江藤委員 ソレハ私ハ意見ガ違フノデアリマシテ、今政府委員ノ仰シヤッタヤウナ事實モアルコトハアリマス、併シソレハ寧ロ少數ノ場合デアリマシテ、政府委員ノ言ハレルコトト私トハ正反對ノ意見ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併シ是ハ意見ノ相違デアリマスカラ是以上申シマセス、私ハ兵役ヲ免除サレ、國民兵役ニモ堪ヘラレナイヤウニ身體ヲ犠牲ニシタ其犠牲者ニ對シテ國家ハ少クモ増加恩給ヲヤッテ、自分ガ働ケナカッタノデスカラ、隨テ自分ノ遺族、家族ニモ非常ナ犠牲ヲ餘儀ナクサセルノデアリマスカラ、遺族扶助料ノ付イテ居リマスル増

加恩給ヲ與ヘルノガ、國家トシテハ當然ダト私ハ思フノデアリマスガ、是以上ハ議論ニナリマスカラ御尋ヲ致シマセス

ソレナラバ私ハ御伺ヲシタイト思ヒマスコトハ、第一款ヲ第七項トセラレタコトハ、拇指ヲ全ク失ッタモノト云フノデ、是ガ第七項ニナッテ居ル、拇指ト云フモノハ、此間モ御説明ガアリマシタヤウニ、指ノ中デハ最も重要ナル、拇指ガ無クナレバ、仕事ニ當ッテ何ノ役ニモ立タヌト云フノデ第七項ニセラレタノデアリマスガ、然ラバ第二款ハ、拇指ノ機能ヲ廢シタルモノト斯ウナッテ居ルガ、機能ヲ廢シタルモノト云フコトニナレバ、是ハ有ッテモ無クテモ同ジコトニナル、少シデモソレガアッテ役ニ立テバ、ソレハ機能ヲ廢シタルモノト御認ニナラスノデアリマス、併シ唯外見上アルト云フダケデ、實際ノ上ハ寧ロアッタ方ガ邪魔ニナルト云フヤウナコトガ考ヘラレル場合モ少クナイノデアリマス、然ラバ少クトモ此第二款ノ拇指ノ機能ヲ廢シタト云フノハ、第八項トシテ御取扱ニナルコトガ適當デアルト思フノデアリマスガ如何デアリマスカ

○高木政府委員 從來ノ等差例ニ付キマシテハ、多少私共モ意見ガアルノデアリマス、ソレハ大體ノ等差例ノ行キ方ガ全ク失ハレ

タルモノ、其次ニ機能ヲ害シテ居ルモノト云フ風ニ、順次一項ツツ下ッテ行クヤウナ行キ方ヲ致シテ居リマスガ、私ハ寧ロ江藤君ノ御考トハ反對デアリマシテ、全然ナクナッテシマッタモノト、幾分デモ形ダケハツ

イテ居ルモノトデハ、感じノ上ニ於テモ非常ニ違フノデハナイカト考ヘルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、或程度マデハ全ク失ハレタルモノ、機能ヲ廢シタルモノト云フコトデ、逐次一ツツ、下ッテ行クコトモ適當カト考ヘルノデアリマスガ、下ノ方ニ參リマシテ、來ヘバ現在ノ第四目ノ一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ、第五目ノ一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノト、之ヲ一目標ノ差ニシテ置クコトハ、寧ロ適當デナイデハナイカ、全クナクナッテシマッタモノノ方ハ、モウ少シ上ニ上ゲテモ宜イノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソコデ此症項等差ノ區分ニ付キマシテハ、何レニ致シマシテモ、將來全般的ニ、全部ガ全部變ヘルト云フ譯ニハ參リ兼ねマスガ、幾分ハ變ヘタイト考ヘテ居ルノデアリマシテ、其際ニ若干ノ考慮ヲ致シタイト云フヤウニ考ヘテ居リマス、但シ第七項ト第一款トノ區分ノ限

界ヲ、一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノト云フコトニ置キマシタコトハ、御承知ノ通り、

増加恩給ヲ給セラレルノハ、不具廢疾ノ程度ニ達シタルモノト云フノデ、不具廢疾ノ定義ノ問題ニモナルト思ハレマスガ、一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノハ、實質のニモ、全ク形ノ上カラモ、之ヲ不具廢疾ノ最低限ト見テ宜シクハナイカト云フコトデ、第七

項ニ一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノトシテト云フコトデ限界ヲ切ッタノデアリマス、之ヲ又下ゲルコトニナレバ、更ニ其下ノモノモ上ッテ來ルト云フコトニナリマシテ、到底ソコニ限界ガ付キニクイ、何處カニ一ツノ大キナ基準ヲ置カナケレバナラス、サウ致シマスレバ一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノト、拇指ノ機能ヲ廢シタルモノトノ間ニハ、私ハ寧ロ一ツノ差ガアルト云フヤウニ考ヘテ居リマス、尙ホ御參考ノ爲ニ申上ゲマスガ、

一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノト云フ風ナ言現ハシ方ヲ致シマシタ場合ニハ、全ク拇指ノ指關節ガ無クナッテシマッタ場合ヲ云フノデアリマシテ、少シデモ頭ヲ出シテ居ルト云フヤウナモノハ、今マデノ慣例カラ申シマス、之ニ入ラナイノデアリマス、ソレデスカラ先程モ其事ヲ申上ゲマシテ御叱リヲ受ケタノデアリマスガ、外國ノ立法例デモサウデアリマス、全失ト云フ場合ニ、指關節以上ト云フヤウナコトヲ明瞭ニ示シテ

居ル例モアルノデアリマシテ、此點ハ唯拇
指ガ一寸ナクナッタト云フダケデナクテ、全
然根元カラナクナッテシマッタト云フ程度ノ
モノヲ不具癢疾ト見テ居ルノデアリマス

○江藤委員 ソレハ能ク分ッテ居リマス、私
共ハ寧ロ今政府委員ノ仰シヤツヤウナ實
感ト、ソレカラ實用ト、兩方ヲ加味シテ無
論考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス
ガ、サウ云フ意味カラ申シマス、私ハ四
目症ノモノヲ年金ニシテ貰ヒタイト言ヒタ
クナルノデアリマス、今アナタノ仰シヤツ
ヤウニ、小指ヲ一ツナクシテ居ルト云フコ
トハ、是モ根カラナクナッテ居ルモノデアリ
マス、四目症即チ一側小指ヲ全ク失ヒタル
モノト云フノデ——子供デモ生レマシタ時
ニハ、先ヅ片輪デナイカト云フコトヲ考ヘ
ル、小指一ツナクナッテモ片輪デスカラ、小指
一ツナイ人ハ人前ニ手ヲ出スニシテモ、小指
ガ根カラ全クナクナッテシマッテ四本シカ
イト云フコトハ、私ハ非常ニ辛イコトデア
ラウト思フノデアリマス、サウ云フコトヲ
御考ニナルナラバ、ドウシテモ四目症ト云
フモノハ年金ニシテヤラナケレバナラス、
之ヲ一時賜金ニシテ放シシマフト云フコ
トハ、此恩賞ノ目的カラ申シマシテモ、一
時賜金ハ直グ使ッテシマッテ、使ッテシマッ

コトハ自分ガ惡イノデスガ、ソレヲ利殖シ
テ居レバ宜イノデスケレドモ、ヤハリ人情
トシテ、アトハモウ恩賞ハ感ジナイト云フ
コトニナリマスカラ、少額ナリト雖モ之ヲ
年金ニシテヤッテ、サウシテ人前デ指ガ出
居ッテモ辛イト考ヘルガ、ナニ自分ハ其代リ
ニ毎年ニダケヅ、ノ恩典ニ與ッテ居ルノダ
ト云フコトデ慰メラレル、サウ云フコトカ
ラ言ヘバ、四目症位マデハ少クトモ之ヲ年
金ニセラレルコトガ適當デアルト思フノデ
アリマスガ、如何デスカ

○高木政府委員 先程申上ゲマシタヤウニ、
例ニ引キマシタ小指ヲ全ク失ヒタルモノヲ
四目ニスルコトハ、私ハモウ少シ此分ニ
付テハ上ゲタイト思ヒマス、今回ノ案デハ、
第二目一側環指ヲ全ク失ヒタルモノガ傷病
年金ニナル譯デアリマスカラ、此程度デー
側小指ヲ全ク失ヒタルモノヲ上ゲタラドウ
カト云フ問題ニナリマスケレドモ、是ハ症
狀等差ノ問題ニナリマシテ、尙ホ研究ヲ要
スルト思ヒマス、只今此處デソレヲ年金ニ
スルト云フコトヲ申上ゲルコトハ一寸出来
ナイノデアリマスガ、私ノ考ト致シマシテ
ハ、少クモ此症項等差ノ決メ方ハ今少シ研
究スル必要ガアルト思ッテ居リマス

○江藤委員 ソレハ洵ニ結構デアリマス、

吾々ハ此症項等差ニ依ッテ考ヘテ居ルノデ
アリマスカラ、此症項等差ヲ適當ニ御研究
ニナリマシテ、ソレニ依ッテ年金或ハ一時金
ト云フ風ニ御決メ下サルコトヲ、切ニ御願ヲ
致シテ置キマス

次ハ重症者ニ重ク輕症者ニ輕クスルト云
フ御趣旨ハ至極御尤デ同感デアリマスガ、
ソレニ付テ御手許ニ差上ゲデアリマス通り
ニ、第一項ト第三項ト、第二項ト第四項ト關
係ヲ考ヘテ見マスノニ、最モ症項等差カラ
割出シテ行クノデアリマスガ、是モ變ヘル
ト仰シヤレバ別問題デアリマスガ、第三項
ハ肘又ハ膝關節以上ニテ、一上肢又ハ下肢
ヲ失ヒタルモノ、是ガ第三項デアリマス、
即チ片手ヲ失ッタモノ、第一項ハ同様ニ肘
又ハ膝關節以上デ兩方ヲ失ッタモノ、斯ウ
云フコトニナルノデアリマシテ、其片腕ヲ
失ッタモノト兩腕ヲ失ッタモノトノ難シイ言
葉デ言ヘバ殘存能力ト申シマスガ、身ニ受
ケル非常ナ犠牲ト云フモノハ、一ト二ノ差
デヤナイト私ハ思フ、兩腕ヲナクシタラ非
常ニ困難ヲ感ズル、片腕アレバ、右手利キ
ノ者ナラ右手ガアレバ大シタ不便ハナイケ
レドモ、兩手ガ肘カラナクナッテシマウ、
斯ウナレバ片腕ヲ失クシタ者ノ倍ドロロヂ
ヤナイト思フ、所ガ此増加恩給ノ額ヲ比較

シテ見ルト、三項ト一項トハ増加恩給額ニ
於テ僅ニ五割六分増シテ居ルニ過ギナイ、
之ニ普通恩給ヲ加ヘマスルト、四割六分
増シニナッテ居ル、同様ノ意味ニ於テ四項
ト二項、是ハ腕ノ關節、或ハ足ノ關節、言
換ヘレバ此肱カラ先デ片腕ヲナクシテ居ル
者ト、兩腕ヲナクシテ居ル者、其比ハヤハ
リ倍ニモ達シテ居ラスノデアリマス、私ハ
倍ニナッテモ足ラスト思フ、ソレガ倍ニモ
達シテ居ラス、是デハ政府ノ重症者ニ重キ
ヲ置クト云フ御趣旨ニ副ハヌト思フノデア
リマスガ、如何デアリマスガ

○高木政府委員 大體増加恩給ヲ決メマス
基準ニ付キマシテハ、寧ロ最モ程度ノ高イ
モノヲ基準ト致シマシテ、漸次決メテ參ッ
モノデアリマスガ、ソレハ結局第一項ニ達
スルモノデアリマスレバ、大體獲得能力ノ
全喪失ト云フ風ニ見ラレルノデアリマス、
此一定程度以上ニ達シマシタモノニ付キマ
シテハ、更ニ他ノ症狀ガ加ハリマシテモ、
獲得能力ト云フ方面カラノミ考ヘレバ、別
段ソレニ増加スルノ必要ガナイト云フ風ニ
理論的ニハ考ヘラレルノデアリマス、然ル
ニソレ以下ノ各項ニ付テ考ヘマス、是モ
實際問題ハ色々個々ノコトニナルト思フノ
デアリマスガ、片腕ガ失クナッタカラ兩腕ノ

半分ダト云フコトニハナリハマセヌデ、片腕ナイ爲ニ職業上カラ考ヘマスレバ、殆ド全部ノ收入ヲ失フト云フヤウナ場合モ相當多インデヤナイカト考ヘラレル、寧ロサウ云フ場合ノ方ガ私共ノ考トシテハ多イノデアリマシテ、是ハ數學的ニハ行キ兼ネルト思フノデゴザイマス、ソレデ考ヘマス、例ヘバ一眼ヲ盲シタ場合、是ハ御承知ノ通り五項デアリマスガ、兩眼ヲ盲シタ場合ニハ一項ニナリ、倍以上ニナル、此場合ハ一ツノ眼ガ失クナツタ場合ト兩方ノ眼ガ失クナツタ場合トハ勿論非常ナ差ガアルノデアリマシテ、數學的ニ一ト二トノ關係ト云フコトニハ行キ兼ネルト思フノデゴザイマス、同様ニ其反對ノ事例ヲ考ヘマス、一肢ヲ失ツタ、片方ノ足デアルトカ、或ハ片方ノ腕ヲ失クシタト云フ場合ニ、ヤハリ一ト二トノ割合デ行クト云フモノデアリマセヌデ、寧ロ其場合ニハ、一肢ヲ失ツタ爲ニ、獲得能力ノ立場カラ考ヘレバ、或ル場合ニハ全喪失ニナルヤウナ場合モアルト考ヘマス、ソコデ從來モ此一項、三項ノ比率ヲ一ニ對スル二ト云フヤウナ比率ニ取ツテ居リマセヌデ、例ヘバ丙ノ欄デ申シマス、三項六百圓ニ對シテ一項ガ九百圓、五割ノ増加ト云フコトニナツテ居ル、今回ノ増額ニ於キマシ

テハ、特ニ重症者ニ重キヲ置クト云フ趣旨カラ致シマシテ、一項ニ對シテハ大體三割五分ノ増加ヲ致シテ居リマス、三項ニ對シテハ二割五分程度ノ増加ヲ致シテ居ル譯デアリマス、此點カラ見マス、寧ロ今回ノ方ガ從來ヨリモ増加率ガ多イノデアリマシテ、ソレハ必シモ數學的ニ倍ニスルト云フ程度ニマデ上ゲル必要ハナイガ、尙ホ併シ重症者ニハ成ベク餘計與ヘヨウト云フ趣旨デ大體此程度デ適當ダラウト云フノデ、斯ウ云フヤウナコトニ立案シタ譯デアリマス

○江藤委員 是モ議論ニナリマスルカラ差控ヘマスガ、唯決シテ一ト二トノ比デヤツテ戴キタイト云フコトヲ私ハ言ツテ居ルノデハナイ、現行法ニ依ルト、御説ノヤウニ普通恩給ヲ加算致シマシタ五項ト一項、即チ一眼ト兩眼ハ一ト二ニナツテ居ル、ソレガ不合理ダト言ツテ責メタ譯ナンデス、眼ヲ一ト二ニ比較シテ倍ニスルト云フヤウナコトハ不合理ダ、モット殖ヤサネバイカスト言ウテ、輿論ガソレヲ喧シク言ツタ、今度ノ恩給法デソレガ少シ善クナリマシテ、五項ト一項トノ差ガ一ト二ト云フ數學的デナクナツタノハ、私共感謝シテ居ル譯ナンデスガ、私ハ恩給局長ノ仰シヤル、片手ヲ失クシタ者ハ獲得能力ガ殆ドナクナツテシマフト、サウ云

フ人モアリマセウ、又一面片手ガナクナツテモ、右手デ仕事ヲヤルヤウナコトガ出來ル、常識的ニ考ヘタラ確ニ私ノ言フコトガ正論ダラウト思フ、假令右手利キノ者デモ、右手ガ失クナレバ、左手ガ上手ニナルノデス、併シ兩手ガ失クナツタノハ、足デヤルヨリ外ニ方法ガナイノデ、是ト一緒ニ比較シテ議論ヲ申サレテモ、恐ラク理論ハ成立タヌト思フ、ソレヲ私ハ一ト二ドコロデヤナイ、モット多クシテ貫ヒタイト思フ、ソレガ一ト二ニモナツテ居ラヌカライカスト言フノデ、何モ腕ガ一本ト二本ダカラ一ト二ニセヨト單純ナ議論ヲ申上ゲテ居ルノデハナイト云フコトヲ申上ゲテ、此程度ニシテ置キマス、今ノ恩給局長ノ御答辯ハサウ云フ理由デ承服ガ出來ナイト云フコトヲ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス

次ハ繼目ヲ滑ラカニスルト云フコトガ御説明ニアルノデアリマスガ、是モ一寸前ニ申上ゲマシタガ、六項ト七項トノ間ノ繼目ガ少シ滑ラカデナイノデアリマス、少シ上リ過ギル、是等ハ小サナコトデアリマスガ、中々傷痍軍人ハ小サイコトマデモ考ヘルノデアリマシテ、滑ラカニシテ戴イタラドウカト思ヒマス、殊ニ四款ト一目トノ差ノ如キ、現行法ヨリモ一層目症ノ方ガ割ガ悪ク

ナツテ居ルヤウナ關係ハ、餘程御考慮ニナラネバナラヌコトデヤナイカト思フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○高木政府委員 此點ハ屢、申上ゲタト思フノデアリマスガ、新シイ第一目ト新シイ第四款ト、其關係カラ申シマス、御承知ノ通り、傷病年金ニ付キマシテモ有期恩給ノ規定デアリマスノデ、從來ノ比率カラ申シマス、七倍何ガシカニナツテ居ルノデアリマスガ、ソレデハ有期傷病年金トノ關係上却テ權衡ヲ失スルト云フ結果ニナル、ソコデ今回ハ丁度第一目ガ第四款ノ四年分ニ相當スルヤウニ決メマシテ、ソレノ矛盾ヲ防ギマシタ、何處カニ多少ノ無理ガ起ルト云フコトハ、ドウモ已ムヲ得マセヌノデ、實ハ第一款ト第七項ト、第四款ト第一目、此關係ニ於テ若干ノ無理ガアルコトヲ私共考ヘテ居ルノデアリマスケレドモ、是レ以上滑ラカニスルト云フコトハ、中々名案ガナイノデアリマス、ソコデ或ル程度ノ多少ノ不幸ガ起ル場合モ生ズルト考ヘルノデアリマスケレドモ、大體論カラ言ヒマシテ、極メテ僅カナ經費デアリマスカラ、サウ云フ場合ハ或ル程度マデ我慢ヲシテ戴キマシテ、此程度ノ改正ニ依ツテ兩者ノ關係ヲ滑カニスル外ナイデヤナイカト云フ風ニ考ヘテ居

リマス

○江藤委員 此問題ハ此程度ニシテ置キマ

ス、一、目症以下ヲ舉ゲルコトハ前ニ申上ゲ
テアリマスルカラ、モウ申上ゲマセヌ、次ハ
戦地ニ於キマスル公傷者ノ待遇デアリマス
ルガ、是ガ内地ニ於ケル公傷者ト同ジヤウ
ニ今日ハ待遇セラレテ居ル、現ニ本日モ其
人カラ手紙ガ私ノ處ニ參ッテ居ルノデアリ
マスガ、自分ハ其當時輜重輸卒トシテ日露
戦争ニ行ツタ、サウシテ不可抗力デ第二線ニ
於テ輸送中ニ車輛ニ足ヲ轢カレテ不具ニナッ
タ、自分ハ何モ輜重輸卒ヲ志願シタ譯デハ
ナイノデ、政府ガ輜重輸卒ヲ命ジタノデア
ル、自分ハ輜重輸卒トシテ車輛ヲ引張ルノ
ガ任務デアツテ、第一線ニ立ッテ戦サスルノ
デナイ、ソコデ待遇ハドウカト云フトヤハ
リ戦地ニ於ケル待遇ヲ受ケテ居ル、恩給ヲ
増スコトモ皆戦地ノ待遇ヲ受ケテ居ル、サ
ウシテ不可抗力デ自分ノ任務ニ從ッテ負傷
シタ、ソレガ内地ニ在ッテ鐵道ニ職ヲ求メ
テ鐵道ノ公務員トシテ働イテ居ッテ、不可抗
力デ足ヲ車輛ニ轢カレタ、斯ウ云フノ同
ジヤウニ待遇セラレルト云フコトハ如何ニ
モ心外デアル、現ニ青森ノ雪中行軍ノ時ニ
雪ニ凍エテ澤山ノ死傷者ガ出来タ、アレハ
勅令ガ出マシテ戦傷ト認メルト言ウテ現ニ

戦傷ト認メタ例モアル、青森ノ雪中行軍デ

サヘモ戦傷ト認メラレル、サウ云フ風ニマ

デ 陛下ノ思召ガアルニ拘ラズ、吾々ハ萬歲

聲裡ニ送ラレテ、戦地ニ於テ自分ノ兵種相

當ノ任務ニ服シテ、其任務ノ上ニ於テ不可

抗力デ怪我ヲシタ、是ガ職業的ニ働イテ居

ル鐵道ノ従業員ヤ或ハ遞信省ノ従業員ト同

ジ公傷ニ取扱ハレルト云フコトハ、如何ニ

モ不合理デアル、斯ウ云フコトヲ長年サウ

云フ立場ニアル人ガ申シテ居ル、吾々モ至

極ソレハ御尤ダト同感ニ堪ヘナイノデアリ

マスルガ、政府ノ御意見ハ如何デアリマス

カ

○高木政府委員 其點ニ付キマシテハ先程

モ一寸問題ニ出タノデアリマスガ、冷靜ナ

議論カラ致シマス、私ノ意見ト致シマシ

テハ、一體戦地デアルカラ、或ハ戦闘ニ依ッ

テ負傷シ或ハ戦死シタト云フコトニ依ッテ

區分ヲ設ケルト云フコトハ、理論的ニハド

ウカト思フノデアリマス、現ニズツト從前ノ

例デハソレヲ同ジニ扱ッタ例モアルノデア

リマシテ、戦地ニ於テ疾病ニ罹ッタ場合ニ

ハ戦闘ニ準ズル公務トシテ扱ハレテ居ッタ

時代モアルノデアリマス、併ナガラ之ヲ純

理デ考ヘマスト、一體國家ノ爲ニ犠牲ニナ

ルト云フコトカラ考ヘレバ、戦地デアッテモ

内地デアッテモ感情ノ相違ハ別トシテ、之ハ

同ジデナケレバナライデヤナイカト思フ

ノデアリマス、演習ニ行キマシテ、内地デ

モ能クアルノデアリマスガ、馬ニ蹴ラレテ

死ンダト云フヤウナ例モ幾ラモアルノデア

リマス、ソレガ偶、戦地ニ行ッテ戦地デ馬ニ蹴

ラレテ死ンダ場合ニハ戦死ニナル、或ハ特

別ノ階段ヲ設ケルト云フコトハ如何デアラ

ウ、純理論カラ申シマス、私共ハ寧ろ國

家ノ犠牲ニナルト云フ立場カラ考ヘマシテ、

餘リ其間ノ區別ヲ付ケナイ方ガ宜イデハナ

カラウカ、唯感情ノ問題デアリマシテ、戦

地デ死ンダトカ或ハ戦地デ怪我シタトカ云

フヤウナ場合ハ、其時ノ同情ノ氣分ガソコ

ニ反映シマシテ、區分シタ方ガ宜イト云フ

ヤウナ議論ガ起ルノデアリマスルケレドモ、

ソレハ一種ノ感情論ニナツテ、冷靜ナル議論

カラ言ッテ果シテ適當デアルカドウカト云

フコトハ疑問ニ思フノデアリマス、其一ツ

ノ好イ例ガ只今御示シニナリマシタ雪中行

軍ノ例デアルト思ヒマスガ、現在ニ於テハ

ア、云フ場合之ヲ戦死トシテ扱フト云フヤ

ウナコトハ恐ラクナイト思フノデス、唯其

當時ノ情勢カラ考ヘマシテ、青森ノ雪中行

軍ト云フモノニ對スル社會ノ同情心ノ方ガ

勝チマシタ場合ニ於テ、ア、云フ結果ニナッ

タモノト私共ハ考ヘテ居リマス、サウ云フ

感情論ヲ加ヘズニ、純理論カラ考ヘレバ、其

間ニ餘リ細カイ區分ヲ付ケナイ方ガ寧ろ公

平デヤナイカト云フヤウニ私共考ヘマス

○江藤委員 純理論ニ付テハ是ガ一貫スルナ

ラバ全然同感デアリマス、軍隊ノ立場カラ

申シマスナラバ、平時ニ於テモ戦時ニ於テ

モ上官ノ命ニ依ッテ其任務ニ服スルト云フ

點ニ於テハ何等變ル所ハナイノデアリマス

カラ、平時ニ於テ怪我シタ者モ、演習ニ依ッ

テ怪我シタ者モ、或ハ戦時ニ於テ彈デ怪我

シタ者モ同様デアリマス、隨テ之ヲ一貫ス

ルナラ宜シイノデアリマスルケレドモ、現實

ノ問題トシテ一貫シテ居ラス、一貫シテ居

ラストスルナラバ、少クトモサウ云フヤウ

ニ戦地デ怪我シテ居ル者ト、職業的ニソレ

ヲヤッテ居ル者トノ區別ハ私ハドウシテモ

至當デヤナイカ、一貫スルト云フ議論ナラ

一貫スルト云フコトデ私反對致シマセヌガ、

現實ニ於テ一貫シテ居ラス、一貫シテ居ラ

ストスルナラバソコニ一貫シナイ理由ガア

ル、ソレヲサセナイ理由ガアル、所謂戦時ト

戦時ニ準ズベキモノトニ何等カノ理由ガア

テ、ソコニ一貫セザルモノガアルノデア

リマスカラ、サウシタナラバ、其理由ヲ擴

大致シマシテ、戦地ニ於ケル負傷ト云フモ

ノヲ何等カーツノ段階ヲ設ケルコトガ適當
ダラウト思フノデアリマス、是モ亦議論ニ
ナルノデ、アナタハ其兩方ヲ採入レテ此
程度ガ宜イト仰シヤル、私ハドウモ採入レ
ルナラモウツ作ルガ宜イト云フコトニナ
ル、是ハ議論デアリマス、ダカラ是ハ委員
諸君ノ公平ナル御裁斷ヲ俟ツヨリ外ナイノ
デアリマス、唯今申上ゲマスヤウニ、一貫
スルナラバ御同感デアリマスルガ、一貫セ
ザルガ故ニ、戰地ニ於ケル不可抗力ノ負傷
者等ニハ特別ノ階段ヲ設ケテ、内地ト區別
スル必要アリト私ハ認メルノデアリマス

次ハ昭和九年四月一日以前傷痍疾病ニ罹
リタル——罹ッタ言ウテ宜イカ、或ハ傷痍疾
病症狀ノ増進ト云フコトニ依ッテ、ソレガ款症
程度ノ裁決ヲ受ケタ者ニ對シマシテハ、准
士官以上ニハ款症ノ精神的優遇ハ受ケマス
ルガ、年金ハ受ケラレマセヌコトニナッテ
居ルト思フノデアリマス、是ハ成程將校、デ
アリマスカラ、其位ノ症狀ナラバ年金ハ宜
カラウト云フ御考カモ知レマセヌガ、是ガ
第七項症程度ニナレバ、ヤハリ是ハ項症ト
シテ取扱ハレテ、年金モ増加恩給モ貰ヘル
コトニナル、將校ダカラト云ッテ、唯形ダ
ケノ優遇ヲシテ、サウシテ是ダケヲ取除イ
テ年金ヲヤラスト云フコトハ、ヤハリ公平

ト云フ意味カラ言ッテ少シ缺ケルノデハナ
イカト云フコトヲ感ズルノデアリマスガ如
何デスカ

○高木政府委員 傷病年金並ニ傷病賜金ノ
沿革ニ付テハ、御承知ノ如ク、従前ハ軍人
恩給法時代ニ於テハ、賑恤金ノ名稱デアッ
タ、下士以下ノ軍人ニ對シテノミ給與サレ
ルコトニナッテ居リマシテ、不具癢疾ノ程度
ニ至ラザル者ニハ賑恤ノ意味デ賑恤金ト云
フ制度ガ設ケラレタト考ヘラレルノデアリマ
ス、隨テ大體在職年ノ關係カラ見マシテ、
普通恩給ニ到達シタ程度ノ將校ニハ、賑恤
金ヲ給與シテ居ラナカッタ、其趣旨カラ考ヘ
マスト、ヤハリ形ハ變ッテ居リマスガ、其程
度ノ輕イモノデアレバ、特ニ將校ニ對シテ
ソレヲ給與スル必要ハナイデハナイダラウ
カ、將校ノ方ニ於キマシテハ、兎モ角一定年
限勤メマシレバ、相當ノ普通恩給ヲ給與サ
レルノデアリマスカラ、其普通恩給ノ中ニ
ハ、或ル程度ノ傷痍疾病ニ對スル所ノ獲得
能力ノ素質ト申シマスト、大分大袈裟ニナ
リマスガ、サウ云フモノガアルト致シマシ
テモ、其部分ハ普通恩給ノ中ニ「カバー」サ
レテ居ルモノト考ヘテモ宜イモノデハナイ
カ、サウ云フ意味ニ於テ恐ラク賑恤金ヲ給
與サレナカッタト考ヘマスガ、同様ノ精神

ガ、ヤハリ今デモ殘ッテ居ルト考ヘラレル
ノデス、現行法ニ於キマシテモ、傷病賜金
ヲ受ケルノハ下士以下ノ軍人ニ限ラレルカ
ラ、傷病年金ガ出來マシタノデ、其點ガ稍、
不明確ニハナッテ居リマスガ、是モ元來ノ趣
旨カラ言ヘバ、本來ハ將校以上ニ給付スベ
キモノデハナクテ、下士以下ノ軍人ヲ目標
トシテ立テラレタモノト考ヘラレルノデ
ス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、色々國家
財政ノ多端ノ折柄デモアリマスシ、先ヅ將
校以上ノ普通恩給ヲ受ケラレルヤウナ階級
ニ於テハ、ソコ迄ヤラナクテモ宜シイノデ
ハナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○江藤委員 之ニ關聯致シマシテ無症傷痍
軍人ガ症狀増進ノ故ヲ以テ目症程度ニ裁決
ヲセラレタ者ニ對シテ、ヤハリ傷痍記章ヲ
授與サレマシテ、傷痍軍人トシテ取扱ハレ
ルノデスカ、之ニハ賜金ハナイト思ッテ居
リマスガ、サウデアリマスカ
○高木政府委員 賜金ハ恩給局關係トシテ
ハゴザイマセヌ
○江藤委員 是等ハヤハリ今ノ恩給局長ノ
御話ノ中ニ、將校デアルガ故ニ、傷病年金程
度ノ負傷ナラバ、普通恩給ノ中ニ「カバー」
サレテ居ルカラ、ソレハ我慢シタラ宜カラ
ウ、併ナガラ普通恩給ヲ貰ハズニ其程度ノ

者デ止メル者モ中ニハアル、ソレハ恩給局
長ガサウ御思ヒニナルノデアリマシテ、私
共ハ今日ノ情勢カラ考ヘマシテ、此將校ノ
中ニハ特務曹長モアリマスシ、准士官以上
トナッテ居ルト思ッテ居リマス、准士官ノ如キ
ハ相當一般社會的ノ地位ト云フモノハ低イ
者デアリマス、將校ト申シマシテモ、特務
將校ノ如キモ居ルノデアリマシテ、無論特
務曹長ノ如キモ、大體申シマスト、社會的
地位ト云フモノハ低イ、サウ云フ社會的地
位ノ低イ者ガ相當澤山居ル、是等ガ戰場ニ
於テ一款症ニ該當スルト云フヤウナ者ガ
アッタトシマスレバ、將來ハ是ハ與ヘルノデ
スカラ、將來モ與ヘヌト云フナラバ、アナ
タノ仰シヤッタ通りニ、將校ダカラ其程度ナ
ラバ——將校ハ勞働ト云フコトヨリモ頭デ
働ク階級デアルカラ、少々指ノ一本位無
カッタ所デ頭デヤラレルノダカラ我慢セヨト
言フナラ、是モ亦何デスケレドモ、ソレガ
首尾一貫セヌ、將來ハヤルト云フノニ、唯
取殘サレテ居ル僅カノ者ダケニヤラスト云
フコトニナッテ居リマスカラ、私ハソレガ不
公平デハナイカト言フノデス、ソレモヤラ
スト云フ、是ガ法律デアルナラバソレハ私
ハ何トモ言ヒマセヌ、將校ダカラ我慢スル
ト云フコトニ依ッテ異存ハナイノデアリマ

スガ、其點ハ又アナタト私ト議論ガ岐レルケレドモ、是レ以上ハ議論ニナルカラ私ハ申シマセヌガ、將來ハヤル、過去ニ殘ツカ僅カノ者ハ將校トシテ我慢シロ、斯ウ云フコトガアナタノ御議論ナノデアル、左様ニ承知致シテ宜シウゴザイマスカ

○高木政府委員 大體恩給ノ給與ノ關係カラ申シマスト、原則ト致シマシテハ、將來適用スルト云フコトガ原則デアルノデスカラ、是ハ從來ノ恩給法ノ改正ノ場合ニ於テモ、大體サウ云フ風ニ認メラレテ居リマスガ、唯ソレダケデハ中々過去ノ者ガ満足致シマセヌノデ、或ル程度ニ過去ニ遡及セシメルト云フコトハ已ムヲ得ナイ今度ノ改正ニ於キマシテモ、同様ニ或ル程度ニ於テハ過去ニ遡及致スノデアリマスガ、其過去ニ遡及セシメル所ノ程度ノ問題ト云フコトニナルノデゴザイマシテ、理想カラ申シタナラバ、全部ノ者ニ遡及セシメルト云フコトモ一ツノ方法ト考ヘルノデゴザイマスケレドモ、ソコハ何處カニ限界ヲ設ケマセヌト、限リガナイト云フコトニナリマスノデ、其區切ヲ何處デ付ケルコトガ宜イカト云フ議論ニ結局ナルト思ヒマスケレドモ、一定ノ限界ニ於テ不遡及ト云フコトハ、ドウモ已ムヲ得ナイノデハナイカト考ヘマス

○江藤委員 モウ一二點御願シタイト思ヒマス、全盲者ト一項症ノ程度ノ所謂若干光ヲ感ズル程度ト實際何ニモ光ヲ感ジナイ程度ノ全盲ト云フヤウナ者トハ、非常ナ差ガアルト云フコトヲ豫ネ、全盲者カラ訴ヘラレテ居ルノデアリマスルガ、此症狀ノ等差例ヲ今度ハ御考究ニナル場合ニ、全盲者ヲ特別項ニスルト云フ御考ハオアリニナリマセヌカ、伺ッテ置キタイト思ヒマス

○高木政府委員 實ハ第一項症ノ第四號ニゴザイマスル兩眼ノ視力ガ〇・一ヨリ〇・五米以上ニ付テハ辨別シ得ザル者トアリマシガ、之ヲ制定致シマシタ當時ノ醫者ノ意見デハ、之ヲ盲ト稱スルノダト斯ウ云フコトデアリマシタ、ソレデアリマスカラ、私等ノ考デハ是ガ全盲ト云フ風ニ考ヘテ居ツタノデゴザイマスガ、其後色々ノ方面カラ全ク明暗モ辨別シ得ザル程度ノ者トノ間ニ不均衡ダト云フヤウナコトヲ聞キマスノデ、此點ハ特別項ニ致シマスカドウカ、ソコハハッキリ申上ゲ兼ネマスガ、或ル程度ノ症項等差ヲ改正致シマス際ニ考慮致シタイト考ヘテ居リマス

○江藤委員 此改正案ノ第六十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フルト云フ此「五年内ニ退職セサリシ場合ニ於テハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ヲ以テ退職當時ノ階等ト看做ス」此五年間ト御決メニナッタ根據ヲ御聽シタイト思ヒマス

○高木政府委員 此五年間ト云フノハ恩給法ニ於テ他ニモ幾ラモ例ガアルノデアリマシテ、爾後重症ノ如キモ退職五年内ト云フ規定ガゴザイマス、又有期恩給ニ付キマシテモ、五箇年ト云ッタヤウナ五年ヲ基準ト致シマシタ例ガ多イノデアリマス、ソコデ凡ソ五年モ經テバ傷痍ガ固定ラスルト云フコトガ他ノ例等カラ致シマシテ、特ニ限界ヲ置キマシタ

○江藤委員 現在ノ現行法デ中尉デ負傷シタ者ガ少將ヤ中將マデモナツテ、サウシテ今度ハ辭メル時ニハ、少將ヤ中將ノ増加恩給ヲ貰フト云フコトハ、是非非常ナ不合理ダト私ハ思フ、ソレヲ是正セラレタコトハ洵ニ結構デアリマスルガ、併ナガラ中尉ヤ少尉デ負傷シテ、ソレガ假ニ少佐ナリ中佐マデデ居ル、其間何等恩典ヲ與ヘヌト云フコトモ亦不合理デヤナイカト云フコトモ私ハ考ヘルノデアリマシテ、ヤハリ其間ハ人知レヌ苦勞ラスルノデス、人知レヌ苦勞ヲ感ズルノデス、ダカラ苦痛ヲ忍ンデ職務ニ堪ヘテ居ルノデアツテ、普通ノ職務ヲヤッテ居ル

者ヨリモ、實際ハ非常ナ醫療ヲ自ラ加ヘルトカ、或ハ色々ナソレノ手當ラスルトカ、色々ナ苦痛ヲシテ居ルノデス、ソレ等モ全ク認メヌト云フコトニナルノデアリマスルガ、私ハ何等カソレ等モ認メテヤッテ宜イ方法ガ考ヘラレルノデハナイカ、今日ノヤウニ退職當時ノ階級、階等ニ依ッテ増加恩給ヲヤルト云フコトハ私ハイカスト思ヒマスルガ、又此改正案ノヤウニ其負傷ノ固ツタ其當時ノ階等ニ依ルト云フコトモ私ハ合理的デナイ、斯様ニ思フノデアリマスルガ、如何デアリマスカ

○高木政府委員 其點ハ先程一寸申上ゲマシタガ、現行ノ四十六條ノ二項ニモ「公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癢疾ト爲リ」云々ト斯ウアルノデスガ、是トノ權衡カラ考ヘマス、此場合ニ於テハ在職ヲシテ居ナイト云フ者カラ考ヘラバ、在職ヲシテ居ルダケデモ餘程優遇デハナイカ、ソレ以上ニ更ニ附加ヘルト云フコトハ、直チニ辭メタ者トノ權衡上カラ考ヘマシテ、果シテ適當デアルカドウカト云フコトヲ疑ハレルノデアリマスシ、又サウ云フ者ニ對スル給與ノコトデアリマスレバ、是ハ寧ロ恩給法ノ問題デハナイノデハナイ

カ、在職者ニ對シテノ給與ノ問題ニナリマ
スノデ、恩給法トハ直接ノ關係が無イト云
フコトニナルト考ヘラレマス

○江藤委員 今ノ問題ハ了解致シマシタ、「第
六十五條ノ二第一項ニ左ノ但書ヲ加フ、但
シ普通恩給ヲ併給セラルル場合ニ於テハ別
表第三號表ノ金額ノ十分ノ七・五ニ相當ス
ル金額ヲ以テ傷病年金ノ年額トス」此普通
恩給ヲ併給セラルルト云フコトハ、是ハ長
年勤メタト云フ當然ノ權利デアラウト思フ
ノデスガ、此前モ恩給ハ有難イ思召シデハ
アルケレドモ、一ツ權利ト認メルト云フ御
話モ恩給局長カラアツヤウデアリマシタ、
ソレガ權利デアルトスルナラバ、ソレヲ兩
方併給セラルルトガ當然デアツテ、ソレヲ
四項症ヨリモ多クナルカラト云フノデ權衡
上下ゲルト云フコトハ權利ヲ侵害スルヤウ
ナコトニナリハセヌカ、サウ云フ者ハヤハ
リ長ラク御奉公申上ゲタノデアリマスカ
ラ、假令四項症ヨリモ多クナツテモ差支ヘナ
イ、斯様ニ考ヘラレマスガ、如何デスカ
○高木政府委員 只今御指摘ノ點ハ御尤デ
アリマシテ、實ハ先程申上ゲマシタ傷病増
加恩給、傷病年金、傷病賜金ノ三ツノ關係
ニ於テ成ベクナガラカニ進ムト云フ今回ノ
改正ノ趣旨カラ見マシテ、其處ニ多少ノ無

理ガアルト申上ゲマシタノハ、實ハ是等
ノ點デアルノデス、是モ其一ツノ例デア
ルノデスガ、御承知ノ通り私共モ大分此案
ニ付キマシテハ、色々考ヘテ見タノデス
ガ、普通恩給ヲ併給セラル、場合ト云フノ
ハ、比較的稀ナ場合デアリマシテ、極ク僅
カナ例デハアリマスカ、其人ガ増加恩給ノ
七項ニ裁定セラレタ場合ノ方ガ傷病年金ノ
一款ニ裁定セラレタ場合ヨリモ額ガ少クナ
ルト云フコトハドウモ矛盾ダト考ヘルノデ
ス、少クモ其場合ニ於テハ増加恩給ノ七項
ノ額ヨリモ、超サナイ金額ヲ給セナケレバ其
間ニ矛盾ガ起ルノデアリマシテ、已ムヲ得
ズ此處ニ十分ノ七・五ト云フヤウナ計數ヲ持ッ
テ來タノデス、此處ニ私共ハ非常ナ無理ガ
アルト考ヘテ居リマス、併ナガラ大體カラ
申シマスト、傷病年金ノ場合ニハ普通恩給
ヲ伴ハナイノデスカラ、傷病年金ノ一款ノ
額ガ七項ノ額ヨリモ多クナレバ一款ト七項
ノ關係ト云フモノハナガラカニ行カナイ、
其結果ドウシテモ其處ニ矛盾ガ來ルノデア
リマシテ、此點ハ少數ノ普通恩給併給者ノ
爲ニハ氣ノ毒ニ感ズルノデスガ、他ニ適當
ナ名案ガナカッタノデス、其點ヲ御諒承願ヒ
タイト思ヒマス

○前田委員長 恩給委員會ニ於ケル質問ニ
對スル海軍側ノ綜合的所見ニ對シマシテ發
言ヲ求メラレテ居リマス——岸田政府委員
○岸田政府委員 丁度海軍大臣ガ已ムヲ得
ザル差支デ今日本委員會ニ出席スルコトガ
出來マセヌノデ、私ガ代リマシテ政府委員
トシテ兩法案ニ對スル海軍ノ綜合的ノ所見
ヲ申上ゲタイト思ヒマス
先ヅ恩給法改正法律案ニ關スル所見ト致
シマシテハ、本改正法案ノ主要ナル點ハ、
即チ一ニハ公務傷病者ニ對シ從來ノ取扱ニ
比シ一層之ヲ優遇シ、且ツ症狀等差ニ應ズ
ル支給額ノ懸隔ヲ著シク緩和致シテ居リマ
ス、二ニハ遺族扶助ニ關シマシテハ其性質
ノ實際ヲ考慮ニ入レマシテ、是ガ優遇ヲ企
圖致シテ居リマス、三ニハ全般ヲ通ジマシ
テ上薄下厚ノ趣旨ヲ以テ致シテ居リマス、
是等ノ改善ヲ爲サントスルモノデアリマシ
テ、海軍ト致シマシテハ、現下諸情勢ヲ判
斷致シマシテ、本案全般ニ對シマシテハ滿
足ノ意ヲ表シマスルト共ニ、同時ニ是ガ通
過ヲ切望致シテ居リマス
次ニ恩給金庫法案ニ關スル事項デゴザイ
マスルガ、此法案ハ受恩給者、就中扶助ヲ
常ニ必要トスル遺族竝ニ傷痍軍人ヲ擁護
シ、其福祉ヲ増進セントスルモノデアリマ

シテ、海軍ト致シマシテハ是ガ成立ヲ希望
致シテ居ル所デアリマス
○前田委員長 高橋義次君
○高橋委員 特ニ從軍者ヲ中心トシテノ恩
給年金ニ關スル優遇ヲ目標トスル質疑ハ私
カラモ致シタイト考ヘマスルガ、只今マデ
ノ同僚ノ御質問ト更ニ小高委員モ其點ニ觸
レテ御質疑ニナルサウデアリマスカラ、成
ベク重複ヲ避ケル意味ニ於テ、只今ノ所其
方面ハ保留ヲ致シマシテ、最後ニ若シ私ノ
間ハントスル所ニ同僚ノ各位ガ觸レラレナ
カッタ場合ニ私ノ質問ヲスルコトトシテ、今
日ハ此點ニ觸レナイコトニ致シマス、私ハ
主トシテ恩給法改正ノ第一條竝ニ恩給金庫
法案ト云フ此立法ニ對シテ、法律ノ角度カ
ラノ御尋ヲ致シテ見タイノデアリマス
先ヅ第一點ハ、恩給金庫ハ、此法案竝ニ
設立要綱ニ記載サレタルガ如ク、特別法
ヲ以テ設立スル公益法人デアアル、恩給金庫
法ノ法律上ノ本質ハサウ承ツテ宜シイノデ
アリマスカ
○高木政府委員 御答致シマス、此要綱ニ
公益法人ト書キマシタノハ、少シ言ヒ過ギ
タト考ヘテ居リマス、公益的法人デアリマ
シテ、營利ヲ目的トセザル非營利法人ダト
云フ風ニ御解釋ヲ願ヒタイト思ヒマス

○高橋委員 營利ヲ目的トセザル營利法人ト云フノデスカ、公益的法人ト云フノデスカ

○高木政府委員 公益的ノ法人ト御解釋ヲ願ヒマス

○高橋委員 立法上餘程重大ナコトガ本質ニアルト私ハ考ヘテ居リマス、政府當局ハ一般法ノ公益法人ト營利法人トヲ分ツ標準ヲ何處ニ置イテ居ルノデアリマスカ

○船田政府委員 營利ヲ目的トセザルモノト營利ヲ目的トスルモノトノ區別ニ歸スルト思ヒマス

○高橋委員 營利ヲ目的トスル、營利ヲ目的トシナイト云フコトハ、ドウ云フ點ヲ標準ニナサレカト云フコトヲ伺テ居ルノデアリマス

○船田政府委員 民法第三十四條ニ依ル學術或ハ慈善、サウ云フヤウナ目的ノモノハ之ヲ公益法人ト見テ居リマス、又商行爲ヲ目的トスルヤウナ會社、銀行等ニ付キマシテハ、是ハ營利法人デアリマシテ、是ハ高橋君ノ如ク法律學ニ堪能ナル方ハ十分御存ジダラウト思ヒマス

○高橋委員 ドウモ法制局長官ノ只今ノ御説明デハ法律上ノ兩者ノ分界ニ照シテ、此恩給金庫ト云フモノヲ法律的ニ取扱フ政府

御當局ノ標準ガハッキリシマセヌ、吾々ハ立法ヲ適切且ツ妥當ニヤルト云フコトガ任務デアル以上、其點ヲ基礎カラ明確ニシテ行カナケレバナラスカラ御尋スルノデスガ、民法第三十四條ノ規定ハ、成程長官ノ御述ニナツ

タ通り、學術、技藝其他公益ヲ目的トスル法人ヲ公益法人ト記シテアルノデアリマス、然ルニ是ハ恩給金庫設立ノ要綱ノ第一「設立」ノ所ニ「恩給金庫ハ特別法ヲ以テ之ヲ設立シ公益法人トス」、斯ウ謳フテ居ルカラ、其處ニ疑ヲ持ツテ私ハ御尋ヲ致シマシタガ、恩給局長ハ公益的法人ト御述ニナツタノデアリマス、公益的ト云フコトノ意味ガ私ニハ分ラナイノデアリマス、公益的デ非營利的ト云フヤウナ法人ハ一般法ハ認メテ居リマス、公益法人カ營利法人カ、二者其一ヲ出ナイノデアアル、本體ヲ混同シテ居ル所ノ、兩者混同ノ新意義ヲ持ツテ居ル法人ト云フモノヲ認メラレタト云フコトハ、寡聞ニシテ私ニハ分ラナイ、若シ一般法ト云フモノノ基礎的ナ意義ト云フモノヲ超越シテ、之ヲ新ニ御作リニナルト云フナラバ、其根本ヲ何處ニ置イテ此設立ヲ爲サルノデアアルカト云フコトヲ明ニシテ戴キタイノデアリマス

○船田政府委員 先程恩給局長ガ公益的法

人ト申上ゲタノハ其趣旨デゴザイマシテ、其法人ノ基礎ヲ特別法ニ置クト云フコトニ致シタノハ其趣旨ナノデアリマス

○高橋委員 私ハ其點ニ大キナ疑ヲ持ツ者デアリマスガ、一般法ガ公益法人ト營利法人トヲ嚴格ニ揭示シテ、各法人ノ使命トスル所ヲ法律ノ上ニ於テ明確ニシテ居ル、特別法ハ勿論一般法ニ先ダツノデアリマスルケレドモ、特別法ナルガ故ニ一般法ノ本質ト云フモノヲ左右スルコトハ出來ナイト私ハ思フ、此點ニ對スル政府ノ御意見ハドウデアリマスカ

○船田政府委員 左様デアリマスルカラ、茲ニ特別法ヲ必要トスルノデゴザイマス

○高橋委員 サウ云フ御意見デハ一寸喰違ッテ居ル感ガ致シマスカラ、私具體的ニ申シマセウ、公益法人ト營利法人トノ區別ハ、其他ニモ色々ナ角度カラ見ルコトガ出來ルト思ヒマスガ、先ヅ出資金ニ對スル配當ノ如何ト云フコトガ重大ナ論議ノ點デアルト思フ、然ルニ此恩給金庫ト云フモノハ公益的法人デアルト御述ベニナツテ居ル前提カラ考ヘレバ、即チ公益、學術、技藝、其他ア、シタモノノ範疇ニ屬スベキ、質的ナ意味ヲ持ツテ居ラナケレバナラナイト思フ、隨テ利益ノ配當ヲスルト云フヤウナ法人ハ、

私ハ公益的ノ法人ト稱スルコトハ本質カラ見テ出來ナイモノデヤナカラウカ、斯様ニ考ヘラレマスガ、私共ハ徒ニ之ヲ否定センガ爲ニ御尋スルノデハナイ、先程申上ゲマシタ通り、立法ハ最モ合法的ニ、且ツ妥當ニヤラナケレバナラナイ、然ルニ特別法ヲ以テ一般法ノ本質ヲ超越スルヤウナ法律ノ建設ニ際シテハ、特ニ私共慎重ニ考慮シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、其爲ニ伺フノデスカラ、御議論デ勝ツタ負ケタト云フヤウナ氣持デアルノデゴザイマセヌカラ、其點胸襟ヲ開イテ御述べテ願ヒマス

○船田政府委員 高橋君ノ御質問ノ要旨ガ何處ニ在ルノカト云フコトハ、能ク分ラナイノデアリマスガ、御承知ノ通り民法三十四條ノ法人ハ是ハ明ニ公益法人、併シ其他ノ民事會社ニ付キマシテハ、形ノ上カラ、又實質ノ上カラ申シマシテモ、營利ヲ目的トシテ居ルモノデナクトモ其法人ノ行爲ガ當然收益ノ結果ニナル事業ヲ營ンデ居ルモノガアリマス、例ヘバ漁業會社ノ如ク、商法上ノ會社ニ據ラズシテ、民事會社トシテ設立サレルモノガアルコトハ御存ジノ通りデアリマス、此恩給金庫ハ是ハ民法三十四條ノ所謂公益法人デハゴザイマセヌケレドモ、公益ヲ目的トシテ居ル法人タルコトニ

於テハ間違ナインデアリマス、併ナガラ其ヤッテ居ル結果ガ収益的ノ結果ヲ齎スト云フコトヲ何等否定スルモノデハナカラウト思ヒマス、其點ハ法律ニ於テ決シテ排除シテ居ルモノデハナイト私ハ考ヘマス

○高橋委員 サウナッテ來ルト、的ト云フ用語ヲ御使ヒニナリマシタガ、私モソレニ便宜從ヒマスガ、公益的ト營利的ト云フ區別ヲ何處ニ置イテノ政府當局ノ御考デアルカト云フコトヲ、重ネテ伺ッテ置キタイ、只今法制局長官ノ御述べニナラレタ漁業會社ト云フノハ、恐ラクハ財團法人ノ漁業會社デハナクテ、漁業組合ヲ御指シニナッテ居ルノデハナイト思フ、サウスレバサウ云フモノハ特別法ニ據ツタモノデハナクテ、民法當然ノ規定ニ基イテノ組合デアルト考ヘテ居リマス

○船田政府委員 今御指摘ノ通り民事會社ニハサウ云フ實例ガ澤山ゴザイマス

○高橋委員 漁業組合ハ公益的法人トシテハ取扱ッテハ居ラスト私ハ考ヘマス、政府ハドウ云フ御取扱ヲ爲ステキラシヤルノデスカ

○船田政府委員 民事會社及ビ商事會社ノ問題ニナリマス、是ハ主トシテ司法省ノ民事局ノ解釋ヲ最モ權威アル解釋トシテ認

メザルヲ得ナイノデアリマスカラ、其學理的ノ御説明ニナリマスレバ、司法省ノ民事局長ノ出席ヲ求メテ御説明スル方ガ便宜カト考ヘマス

○高橋委員 民事局長ノ御説明デモ宜シウゴザイマスシ、ソレカラ長官竝ニ恩給局長ノ其點ニ關スル此上ノ御檢討ニ依ッテ御答デモ宜シウゴザイマス、兎ニ角其點ニ付テハッキリシタ立法上ノ根據サヘ把握スルコトガ出來レバ、私ハソレニ依ッテ満足スルノデアリマス、サウ云フ御取扱ヲ御執リヲ願ヒタイノデアリマス

ソレカラ第二點トシテ、此恩給金庫ノ立法ハ、是ハヤハリ所謂社會立法ノ性質ヲ帶ビタ御目論見ノ下ニ生レタノデアリマスカ、ソレヲ伺ッテ置キタイノデス

○船田政府委員 所謂社會立法ト云フモノノ觀念ノ中ニ入ルノデアリマス、ソレカラ高橋君ガ公益的トカ、或ハ營利的ト云フコトノ區別ニ付テノ御尋デアリマシタガ、是ハ勿論一般ノ法律觀念、法律常識カラ解釋サルベキ問題デアリマシテ、恩給金庫ハ民法三十四條ニ依ル公益法人ノ如クニ、學術慈善ト云フヤウナコトヲ目的トシテ居ルモノデハゴザイマセスカラ、當然ノ公益法人トハ申セナイト思ヒマス、併シサレバト

云ッテ商事會社ノ如ク營利ヲ追求スルト云フコトヲ終局ノ目的トシテ居ルノデアリマセスデ、受恩給者ニ對スル金融ノ途ヲ付ケル、サウシテ而モ其收益ガ舉リマシタ場合ニ於テハソレハ出來ルダケ受恩給者ニ對スル貸付ノ利息ヲ引下ゲル、或ハ福利施設ヲ作ルト云フヤウナコトニ依リマシテ、商事會社ガ利益ヲ收メテ、ソレヲ株主ニ配當スル、或ハ重役賞與ヲドレ程増加スルト云フヤウナ趣旨トハ違フノデアリマス、隨テ其法の根據ノ特別法ニ求メタノデアリマシテ、其特別法ノ結果ト致シマシテ此恩給金庫ノ性質モ所謂公益的法人ト云フコトニナラウカト存ジマス

○高橋委員 社會立法ノ意義ヲ基礎トシテノ立法デアリマスコトハ拜承致シマシタ、曩ノ法人ノ本質論ニ至リマシテハ、特別法ニ據ル所謂現ニ收支明細表ニ明示セラレテ居リマス通り、剩餘金處分、配當率年五分五厘ト云フヤウナ低金利ノ現在ニ於テ、相當多額ノ利率ノ配當ヲナサルト云フコトヲ目論マレル法人ノ設立ニ對シテ、特別法ヲ以テ公益的ト云フヤウナ、卒直ニ申セバシツクリセヌ解釋ノ下ニ、斯ウシタ法人ヲ設立セラレルト云フコトニ、マダ私共ビント來ナイ點ガアルノデアリマス、只今ノ

法制局長官ノ御説明ヲ以テモ、マダシツクリ其儘——告白スレバ私ノ心頭ニ參リマセスカラ、先程申上ゲタヤウニ此上御檢討ヲ願フナリ、御檢討ノ結果只今御述べニナッタ通りダト云フナラバ已ムヲ得マセヌ、又民事局長ノ御説明ヲ願フナリ、何レカニ依ッテモウ少シ明確ニ致シタイト思ヒマス、私希望ヲ申上ゲテ置キマス

ソレカラ江藤委員カラモ仰セニナラレタヤウニ考ヘマスガ、是ハドウモ只今申上ゲタ通り、一面ニ於テ出資者ニ對スル比較的多額ノ配當高率ノ配當ヲシナガラ、又他面ニ於テ受給者ニ對シテ相當ノ高率ノ貸出ヲナサレテ、六分、ソレニ尙ホ補償金三分、此補償金ニ付テノ保險料トノ關係ニ於テ調節セラレルトハ承ッテ居リマスカラソコ迄ハ論及致シマセヌガ、兎ニ角貸付金利息年六分ト云フコトダケデモ私ハ相當高率ナモノダト思フ、ドウモ支出ガ高率ニシテ、サウシテ貸出ノ率ガ相當高イト云フ點ニ於テ、私共ハ此法人ノ設立ニ對シテドウシテモ大キナ期待ヲ持ツコトガ出來ナイヤウナ感じガ致シマス、此點ニ對スル政府ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 是ハ先般來屢、御説明申上ゲタヤウニ、要スルニ恩給金庫自身ハ金庫

ノ自給自足デ行クト云フ立前デ、成ベク政府ノ方面ノ援助ハ大シテ期待シナイ——サウ言フト少シ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、出來得ル限り金庫ガ自給自足デヤツテ行クト云フ考カラ致シマシテ、相當ノ安全率ヲ見込シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ實際ノ貸付ニ當リマシテハ、只今出テ居リマスル豫定ヨリ以下ニ行クダラウト考ヘテ居リマスガ、是モ先般來申シマシタヤウニ、最初カラ非常ニ安イ金ヲ貸シテ行ケルノダト申シマシテ、實際ノ貸出ニナリマシテカラ、サウ云フ安イ金ハ貸セナイト云フヤウナ不始末ガアリマセヌヤウニ、當初カラ多少ノ餘裕ヲ見越シテ居ルノデアリマスカラ、六分ト云フ利子モ、或ハ三分ト云フ補償料モ單純ナ豫定率デアルト云フ風ニ御含ミヲ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ先程ノ金庫ノ本質論ニ付キマシテハ、私共ハ金庫自體ハ何等營利ノ目的ヲ持ッテ居ナイ法人デアアルガ、偶、剩餘金ガアレバ剩餘金ヲ出資者ニ配當スルト云フ立前デアリマス、又當初カラ五分五厘ヲ豫想シテ居ルト云フ御話モアリマスガ、ソレモ單純ナ豫想デアリマシテ、理論カラ致シマシテハ剩餘金ノ配當ヲ目的トスルヤウナ性質ヲ持ッテ居ル法人デハナイノデアリマス、屢、前カラ

申上ゲタヤウニ金庫自體ト致シマシテハ、其財の基礎ガ確定スル程度ニ資本金ヲ持ッテバ宜イ、運用資金ハ他ノ借入金等ニ依ッテ之ヲ求メル、而シテ金庫自體ハ營利ノ目的ヲ持ッテ居ナイト云フ、サウ云フ特殊ノ法人デアルト云フ風ニ御諒承ヲ願ヒマス

○高橋委員 大體前カラノ御説明通りデゴザイマス、ソレダケニ又私ノハッキリ致シマセヌ點ハ、ソレナラバ先ヅ第一點ハ、貸付金利率ヲ六分ニシヨウト云フ豫定ダト云フコトノ御説明デゴザイマスガ、實際ハドレ位ニ貸出セルト云フ確信ヲ御持ニナッテ居ラレマスガ、又ドレ位マデ之ヲ低減シテ貸出シ得ルト云フ今ノ御目論見デアルカラ御伺シタイ

ソレカラ第二點ハ剩餘金ガナケレバ處分シナイト云フコトハ御示ニナッテ居ル形式カラモ明瞭ニ窺ハレマスケレドモ、少クトモ是ハ收支ノ一覽表デ剩餘金ヲ見込シテ而モ年五分五厘ノ配當ヲスルト云フ御目論見ヲ玆ニハハッキリ現ハシテオ居デニナルカラ、私ハ此點ニ論及シタノデゴザイマスガ、サウスレバ是ハ極メテ單純ナ——行ハレナイカモ知レヌガ、マア——大體此程度デ殘シテ置クト云ツタ位ノ程度ノ御表明ナノカドウカ、其點ヲモウ少シハッキリ伺ッテ置キ

タイノデアリマス

○高木政府委員 貸出利率等ニ付キマシテハ、結局借入金ノ資金「コスト」ノ關係ニナリマスノデ、只今ドレダケデヤレルカト云フコトハ、明確ニ御答スルコトハ出來ナイト思ヒマス、併ナガラ是ハ現在一般ニ行ハレテ居リマス市井ノ金融カラ見マスレバ、安イコトハ明瞭デアリマシテ、唯後援會其他ノ特殊ノ團體ガヤツテ居リマスモノニ比シマシテ、比較的安クナイデヤナйкаト云フヤウナ御議論モ伺ヒマスガ、其點ハ十分注意致シマシテ、出來得ル限り安クスル、固ヨリ金庫自身ハ何等ソレニ依ッテ營利ノ目的ガ無いノデスカラ、ソレヲ安クスルト云フコトニ付テハ少シモ差支ナイ、資金「コスト」ガ安クナリサヘスレバ、利子ハドシ／＼安ク出來マス、是ハ或ハ五分八厘ニナルカ、或ハ五分五厘ニナルカ、ソレハ結局資金「コスト」ノ關係デ定マルモノト考ヘマス

ソレカラ剩餘金ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ計畫ト致シテハ載セテ居リマスガ、表面的ノ法律論トシテハ、剩餘金ノ配當ヲ目的トシテ居ル法人デハアリマセヌノデ、只今差上ゲデアリマスル要綱ハ、所謂要綱デアリマスカラ、參考資料トシテ御覽置キラ願ヒタイト思ヒマス

○高橋委員 其點モ政府ハ大阪府並ニ岩手縣ガ四五年前カラ受給者ニ對スル貸出ヲヤツテ居ル實情ヲ御承知ニナッテ居ラレマスルカ、御承知ニナッテ居ラレラバ、其條件、内容ヲ承リタイト思ヒマス

○高木政府委員 岩手縣ガヤツテ居ルト云フコトハ實ハ私共聽イテ居リマセヌ、恐ラク縣廳ノ職員中ノ有志ガ行ッテ居ルノデアラウト考ヘマス

○高橋委員 私共ノ承ッテ居ル所ニ依リマスレバ、大阪府デハ數年前カラ三十萬圓ヲ基金トシテ、受給者ニ對スル、本當ノ公益本位ノ貸出ヲシテ居ル、ソレカラ岩手縣ガ昭和十年頃ノ所謂東北ノ凶作當時カラ十二萬四千圓ヲ基金トシテ始メテ居ル、サウシテ大阪府モ岩手縣モ何レモ年四分ノ利率デ以テ、無手数料デ貸出シテ居ルト云フコトヲ承ッテ居リマスガ、サウ云フコトヲ政府ハ御承知アリマセヌカ

○高木政府委員 マダサウ云フコトヲ聽イテ居リマセヌガ、公共團體自身ガサウ云フ事業ヲ行フト云フコトハ一寸法規上ヲカシクハナイカト思ヒマス、或ハ共濟組合等ノ縣吏員ノ團體ガ、何カサウ云フ風ナ企テヤツテ居ルノデハナイカト考ヘマス

○塚本委員 其事ニ付テ私モ一寸申上ゲタ

イト思ヒマス、是ハ責任ヲ持ッテ確ニハ申上ゲラレマセスガ、今御話ノ事ハ私共大阪ノ府會ニ出テ居リマシタ時ニ、恩給受給者ニ對シテ、恩給基金ノ積立ト云フモノガアツタ、是ハ各府縣ニモアルダラウト思ヒマシタ、大阪府デハソレガアリマシタ時ニ、ドウモ年々恩給ノ支給額ト云フモノガ殖エテ行クニ拘ラズ、其基金ト云フモノガソレニ比例シテ積立テラレテ行カナケレバ、結局恩給基金ノ積立ト云フモノハ無意義ダト云フコトヲ私共府會ニ出テ居ル間ニ感付キマシテ、寧ロサウ云フ無意義ナ積立ラシテ置クヨリモ、其積立金ヲ有意義ニ使ッたらドウカト云フ意見ガ段々起リマシテ、其基金ヲ以テ中小商工業者ト云フヤウナ者ニ對シテ、損失補償ノ貸出制度ヲ設ケタコトガアリマス、其事ガ何カ誤解セラレテ居ルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス

○高橋委員 只今同僚塚本委員ノ御述ニナタコトヲ參酌致シマシテ、且ツ恩給局長ノ御述ニナリマシタ通り、大阪府自體、岩手縣自體ガ、或ハサウ云フ業務ハ取扱ッテ居ラスト思ヒマス、唯ドウ云フ時期カ何カニ或ハ大阪府ニ於テ、或ハ岩手縣ニ於テ斯ウ云フ條件内容ノ下ニ貸出シガ行ハレテ居タト云フコトハ事實ノヤウニ考ヘラレル、

是等ハ私ハ恩給金庫設立ノ相當有力ナ參考資料ニナルノデハナイカ、斯様ニ考ヘラレマスルガ故ニ、御尋ヲ申上ゲタノデアリマス、更ニ私共ノ所ニ方々カラ色々ナ印刷物ガ郵送サレテ參リマスガ、其中「昭和十三年一月恩給見返リ貸付狀況調査、昭和十二年十二月末現在産業組合中央會」下云フ印刷物が參ッテ居リマス、此印刷物ノ三ノ金利別貸付件數及金額、此一覽表ヲ見マス、茲ニ相當ノ低率ナ貸出シガ民間ニモ行ハレテ居ルト云フコトガ證明サレテ居ルヤウニ考ヘラレマス、委員長ノ御許ヲ得マシテ此表ダケラ一ツ速記録ニ止メルヤウニ願ヒタイ

○前田委員長 宜シウゴザイマス

○高橋委員 若シ産業組合中央會ノ報告ニシテ誤リナシトスレバ、相當低率ノ貸出シモ民間ニ行ハレテアツタコトヲ雄辯ニ物語ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、此點ニ對シテ、假令一應ノ御目論見ニ致シマシテモ、年六分補償料三分ト云フ立前ノ恩給金庫ノ設立ノ御計畫ニ對照シテ、如何ナル御所感ヲ御持チニナルカト云フコトヲ承ッテ置キタイ

○高木政府委員 産業組合ノ貸付狀況ニ付キマシテハ、私共ノ方ニモ其書類ヲ戴キマシテ拜見致シテ居リマス、併ナガラ是デモ

御覽ヲ願フト分リマスヤウニ、可ナリ高率ナルモノモアルノデアリマシテ、一割ヲ超ユルモノガ件數ニ致シマシテ百五十件、九分六厘以上ノモノ六百六十一件ト云フヤウナ數ニナッテ居リマス、大部分ガ七分一厘以上デアリマシテ、六分六厘以下ト申シマスルモノハ僅ニ百五十件ニシカナッテ居リマセス、尙ホ産業組合ノ貸付ニ付キマシテハ是ハ産業組合恩給擔保貸付手引ト申シマシタカ、ト云フヤウナ本ガ出テ居リマシテ、ソレニ恩給ヲ擔保トスル貸付ノ手解キヲ致シテ居リマス、其本ヲ見マス、ヤハリ大體市中ニ於テ行ハレテ居リマス、擔保金融同様ニ、生命保險ヲ付ケサシテ居ル、此利子以外ニ生命保險料ト云フモノヲ拂ハナケレバナラス、ソレカラ考ヘマスルト、必シモ産業組合ノ貸付ガサウ非常ニ安イモノデハ

ノデハナイカ、私共モ成ベク此貸付ガ現在ノ貸付額ヨリモ高利ニナルト云フコトハ、金庫ガ設立サレマシタ目的カラ考ヘマシテ宜シクナイト考ヘマスノデ、其點ニ付キマシテハ實際ニ行フ場合ニ於テ出來ル限り十分慎重ナル考慮ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○高橋委員 今マデノヤウナ御説明ハ前ニモ承ッテ居リマスガ、私ハ保險料ト云フモノハ、是ハ債務者カラ申セバ之ヲ擔保ニ供シ

タト假定シテ併合擔保デスガ、其保險料ノ率ヲ之ニ加算シテ計算スルト云フコトガ當ッテ居ルカドウカハ疑問ト思フ、更ニ只今ノ表ノ中、高イモノモ勿論アル、併ナガラ安イモノモアルト云フコトヲ、政府ハ御考慮ノ中ニ置カナケレバナラスト思ヒマス、民間ニモ安クテ、サウシテ之ヲ營メルモノガアルト云フ現實ノ事例ヲハッキリ握ラレテ居ル必要ガアルト考ヘマス、其點ノ例證トシテ申上ゲタノデアリマス、私ハ恩給金庫ト云フモノハ果シテ特別ニ、斯ウ云フヤウナ法律ノ本質カラバカリデハナイ、實際ノ問題トシテ必要ナモノデアアルカドウカト云フコトニ或ル程度ノ疑ヲ持ッテ居リマスカラ、更ニ重ネテ御尋ヲ申上ゲルノデスガ、是ハ此綱要ヲ見テ見マスルト、資本金、或ハ借入金ハ相當ノ數額ニ上ル譯デアリマシガ、是等ノ金ヲ恩給金庫ニ振向ケルコトニ依ッテ、或ル程度ノ公債消化力ノ減退ヲ來スヤウナコトハアリマセスカ

○船田政府委員 其點ハ財政當局カラ申上ゲル方ガ適當ダト思ヒマスケレドモ、此恩給金庫設立ノ趣旨ハ屢、申上ゲテ居リマスル通りニ、受恩給者ノ已ムヲ得ザル經濟上ノ必要ニ應ズルガ爲ニ金庫ヲ設立シテ、サウシテ而モ其資金ハ出來ルダケ自給自足的ニ

集メテ行キタイト云フ考デ、斯様ナ特別法

ニ依リ金庫ヲ設置致シマシタノデ、隨テ資

金ヲ集メルニ付キマシテモ、御承知ノ通り

ニ資本金ガ三千万圓デアリマスケレドモ、

先ヅ差當リ拂込ム金額ハ六百万圓、サウシ

テ其中ノ百万圓ガケラ政府ガ出資スル、ア

トノ五百万圓ハ宮内省或ハ官業共濟組合、

若シソレデモドウシテモ足ラナイト云フ場

合ニハ民間デ公募ヲ致シマスガ、殆ド民間

ノ公募ヲ要セズシテ資金ノ集ル見込ガ大體

立ッテ居リマス、サウシテ而モ拂込金額ノ十

五倍マデ恩給債券ヲ發行スル、其外ニ勿論

借入金モアリマスカラ、サウ云フヤウナ債

券ノ發行及ビ借入金ノ調達ニ依リマシテ、

出來ルダケ低利ノ金ヲ集メマシテ、サウシ

テ出來ルダケ受恩給者ニ便宜ニ而モ低利ニ

貸出シタイ、斯ウ云フ趣旨デ出來ル譯デア

リマス、隨テ自給自足のノ經營デ行キタイト

云フ所ニ主眼ヲ置イテ居リマスノデ、是ガ

出來ルガ爲ニ政府ノ財政ニ非常ナ多額ノ迷

惑ヲ來スヤウナコトノナイヤウニ考ヘテ居

リマスシ、又其資金ヲ集メルト致シマシテ

モ、初年度ニ於テノ計畫ハ其表ニ依ッテ御覽

ノデアリマス

○高橋委員 私ハ大キナ影響ヤ波紋ヲ與ヘ

ルト云フ意味合デハナク、或ル程度ノ公債

消化ノ減退ヲ見ルニ至ルデハナイカト云フ

懸念ガアルダケデゴザイマス、ダカラソレ

ハ重ネテ御伺致シマセヌ、更ニ私ガ承ッテ置キ

タイ點ハ、此表ヲ見マスト、事業費ガ初年

度ニ於テ百十二万圓ヲ要スルヤウデゴザイ

マス、サウシテ法人ノ主タル事務所ノ設置

場所ガ全國ニ六箇所アル、是ハドナタカノ

御質疑モアツタヤウニ考ヘマスカラ、私其點

ニ執著シテ諄々シイコトハ申上ゲマセヌ、

併ナガラ受給者ノ望シデ居ル貸出ニ浴シタ

イト云フ欲求ト云フモノハ、勿論全國的ニ

アルト思フ、是ダケノ僅少ノ箇所ニ是ダケ

ノ多額ノ事業費ヲ注入スルト云フコトハ、

是ハ經濟財政ノ方面カラ見テモ相當考慮シ

ナケレバナラヌ問題デハナイカト思フ、私

ハ長クナルカラ擡擡ンデ申シマスガ、此金

融ニハ民間ニモ高イモノモアルガ、安イモ

ノモアル、大阪或ハ岩手縣ノ如クニ、曩ニ

申上ゲタヤウナ安イ手數料ノ貸出ラシテ、

ソレデ受給者ニ満足ヲ與ヘテ居ルト云フ現

及バナイト云フヤウナ恩給金庫法ヲ、何ガ

故ニ卒然トシテ設立シナケレバナラナイノ

カト云フコトニ、マダ釋然タラザルモノガ

アルノデアリマスガ、其點ヲ伺ヒタイト思

ヒマス

○高木政府委員 此點ハ屢、申上ゲタ所デ

ゴザイマスガ、金庫ノ事務所ハ、主タル事務

所ヲ東京ニ置イテ支所ヲ大阪外五箇所ニ置

クト云フコトハ、大體豫定サレテ居リマス

ガ、實ハ是ダケデハナイノデス、是以外ニ

モ全國主要都市ニ支所程度ニ至ラザル取扱

所ヲ成ベク多數ニ設ケルヤウニ致シタイト

云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、此點

ハ先般申シマシタヤウニ此金庫ノ事業ノ性

質カラ申シテ成ベク事業ノ手ヲ廣ク持ッテ

居ル方ガ本來ノ目的ヲ達成スル上ニ於テ非

常ニ宜イシ、又ソレヲ極端ニ殖スコトニ依

リマシテ、事業費ヲ餘リニ多ク要スルト云

フコトデモ困ル、ソコデ既設ノ機關ヲ或ル

程度ニ利用致シマシテ、出來得ル限り經費

ヲ節約スルト同時ニ機關ノ擴充ヲ漸次圖ッ

テ行クト云フヤウニ考ヘテ居リマス、只今

御話ノヤウニ或ル一部分ニ於キマシテ非常

於ケル一現象デアッテ、一般的ニ考ヘマシ

タ時ニ、現在ノ年金恩給擔保ノ狀況ガ如何

デアルカト云フコトハ、先日來續々御説明申

上ゲマシタヤウニ、大部分ガ所謂高利貸ノ

餌食ニナッテ居ルト云フ現状カラ考ヘマ

シテ、此金庫ノ設立ニ依ッテ救ハレル者ガ相

當多イト云フコトヲ確信致シテ居リマス

○高橋委員 政府モ勿論確信ヲ持ッテ御提

案ニナツタト考ヘマスケレドモ、唯比較的僅

少ノ箇所ニ營業所ヲ設置サレルノニ、是ダ

ケノ多額ノ經費ヲ要スルト云フ現状デハ、

尙ホ他ニ開イテ普遍的ニ營ミ得ル方法モ考

ヘラレルデハナイカト云フ所ニ、斯ノ如

キ法人ノ特設ヲ必要トスル理由ガ何故アル

カト云フコトヲ御尋シテ居ルノデスガ、結

局ソレハ只今ノ御説明ノ通りニシカ出ナイ

ト思ヒマスカラ、是以上御伺致シマセヌ、

實ハ斯ウ云フ心配ガアルノデス、卒直ニ申

上ゲレバ、ドウモ是ハ古手ノ役人ノ姥捨山

ニナルノデヤナイカト云フコトヲ相當多數

ノ人ガ共鳴シタ氣持ヲ持ッテ、此恩給金庫ヲ

考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ更ニ

御尋申上ゲタイノハ、茲ニ掲ゲテ居ラレル

役員ノ銓衡ノ標準ヲドウ云フ所ニ置イテ御

銓衡ニナル御積リカ、更ニ重立ツタ役員ダケ

デ宜シウゴザイマスガ、或ハ前ニ御尋ニナッ

タ方ガアルトスレバ重複シテ甚ダ恐縮ニ存
ジマスガ、理事長トカ理事トカ監事ト云フヤ
ウナノ俸給ナドハ、大體ドンナ御豫定デ
居ラレカト云フコトヲ伺ヒタイ

○高木政府委員 實ハマダ豫定ダケデアリ
マシテ、確實ナコトヲ申上ゲルコトガ出來
ナイノデゴザイマスガ、勿論此金庫ニ依リ
マシテ役人ノ姥捨山ヲ作ルト云フヤウナ考
ハ毛頭ナイノデアリマス、又其金庫自體ノ
事業ヲ御覽下サイマシテモ、ソレ程大シタ
事業デアリマセヌノデ、寧ロスウ云フヤウ

ナ仕事ニ付キマシテハ、能ク其邊ノ事情ニ
諒解ノアル——金庫ニ對シテ諒解ガアル方
面ノ獻身的ノ努力ガ私共ハ必要デヤナカラ
ウカト考ヘテ居リマス、勿論金庫ヲ行ッテ貰
ヒマスニ付キマシテハ、ソレト専門ノ方
面ノ知識ヲ必要ト致シマスノデ、或ル部分
ノ官界出身者ガ入ルト云フコトモ無論アル
コトト考ヘマスケレドモ、同時ニ私共ノ一

番恐レテ居リマスコトハ、金庫ガ出來マシ
テ、而モソレガ獨占ノ事業トシテ年金ノ
恩給受給者ニ對スル福利増進ノ施設ヲスル
ト云フコトヲヤリマシタ以上、此事業ガ成
功スルカシナイカト云フコトハ非常ニ大キ
ナ影響ノアル、又政府トシテモ責任ノ重大
ナ仕事デアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、

隨テ此金庫ガ出來マシタ爲ニ、從來ヨリモ
著シク不便ヲ感ズルトカ、或ハ著シク不利
益ニナルト云フコトガアリマセヌヤウニ、
出來得ル限り所謂官僚の施設ト云フコトヲ
避ケタイ、有ユル方面ノ知識經驗ヲ持ッタ人
ヲ御願シマシテ、ソレニ依ッテ此金庫ノ完全
ヲ運営ト云フコトニ眼目ヲ置キマシテ、人
ヲ選定致シタイト考ヘテ居リマス、マダ只
今ノ所ソレニ對スル具體的ノ案等ヲ立テル
迄ニ至ッテ居リマセヌ

○高橋委員 餘リ繰返スヤウデ甚ダ恐縮デ
スガ、大體ノ合點ガ行キタイ爲ニ御尋スル
ノデス、茲ニ事業費ト云フヤウナモノヲ初
年度カラ年次ヲ追ウテ御立テニナル以上ハ、
相當根據ヲ持ッテ御立テニナッテノ表ダラウ
ト思フノデス、ソコデソレノ理事長トカ理
事トカ云フヤウナ主要ナ者ダケデモ、概算
ノ俸給ノ御豫定ガアッタコトダラウト思ヒ
マスガ、ソレヲ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒ
マス

○高木政府委員 極ク概略ノ事業費ノ内譯
ハ先般御手許ニ差上ゲタト思ヒマスガ、其
中ノ大體報酬ト申シマス分ヲ役員ノ報酬ニ
充テタイト云フ豫定デアリマス
○前田委員長 高橋君、マダ大分掛リマスカ
○高橋委員 モウ一時間位掛ルト思ヒマス

○前田委員長 ソレデハ明日ニ御願ヒシマ
ス、本日ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午
前十時ヨリ開會致シマス
午後五時三十一分散會

〔坂東委員演說參照〕

再交付中最モ被害ノ多イ例

元海軍大佐丹野武雄ハ自己ノ恩給年額貳
千貳拾貳圓ヲ以テ高知縣長岡郡十市村北
村寅雄ヨリ五箇年分壹萬餘圓ヲ借り現在殘
金八千圓有ルニモ拘ラズ勅令發布後證書ノ
再交付ヲ受ケタ(昨年十二月)

元文官内田四郎ハ恩給年額貳千八百拾四
圓ノ恩給證書ヲ以テ宇都宮市塚本肥料店ヨ
リ四箇年分八千餘圓ヲ借り受ケ殘金七千圓
アルニモ拘ラズ本年一月再交付ヲ受ケ之亦
不當極マル借金踏倒ラシテキル

恩給證書再交付ヲ受ケタルモノ

福岡縣久留米市六ツ門通

債權者 久留米市恩給立替

互助會

一、1 恩給種類 海軍

2 證書番號 ト第三二一〇二號

3 年 額 金參百貳拾圓也

4 氏 名 山下茂

5 現在殘債金 千七百五拾圓也

6 再交付年月日 昭和十二年十二月

二十六日頃
再交付ヲ受ケテ後死亡シタル爲メ債
權踏倒シタル

二、1 恩給種類 海軍

2 證書番號 第五六八號

3 年 額 金五百四拾圓也

4 氏 名 富松忍松

5 現在殘債金 貳千九百五拾圓也

6 再交付年月日 昭和十二年十二月

二十六日頃

三、1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 第一三六八號

3 年 額 金七百五拾圓也

4 氏 名 住江長吉

5 現在殘債金 四千五百五拾圓也

6 再交付年月日 昭和十二年二月十

日頃

名古屋市東區相生町四丁目十八

番地

債權者 神村 順市

一、1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 第八一七〇號

3 年 額 金四百八拾圓也

4 氏 名 加納吉太郎

5 現在殘債金 貳千七百五拾圓也

6 再交付年月日 昭和十三年二月十

六日

神戸市須磨區若宮町三丁目四一
番地

債權者 大石佐太郎

一、1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 ホ第一一七七五號

3 年 額 金四百八拾圓也

4 氏 名 金島忠右衛門

5 現在殘債金 貳千貳百六拾四圓

八拾錢

6 再交付年月日 昭和十二年十二月一日頃

昭和十一年九月立替、其レヨリ六回

受領セルノミ

二、1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 ニ第八四〇〇七號

3 年 額 金參百貳拾七圓

4 氏 名 小川卯作

5 現在殘債金 壹千七百七拾八圓

八拾錢

昭和十一年七月立替シ昭和十二年七

月ヨリ支給停止中

再交付申請中ニシテ解決方誠意ナ

シ

小樽市花園町西三ノ九

債權者 龜屋 紋造

1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 ニ第一〇一四〇一
號

3 年 額 金百七拾七圓

4 氏 名 長田長藏

5 現在殘債金 壹千四百參拾四圓

貳拾九錢

6 再交付年月日 昭和九年中

中川ナヲ風間マス竹内ヨシ其他三

人ノ寡婦ノ組合ニテ亡夫ノ遺産ヲ

集メ金融セシモノナレバ關係者ノ

遺兒ノ學資ニモ困窮スル事情ナ

リ

小樽市稻穂町東一丁目二番地

債權者 飯塚 貞治

一、1 恩給種類 文官

2 證書番號 イ第四〇二〇一號

3 年 額 金四百六拾圓

4 氏 名 樺山敏夫

5 現在殘債金 參千七百五拾六圓

貳拾五錢

6 再交付年月日 昭和十二年七月頃

ナラン

再交付ノ運動者 東京市牛込區

久保田法律事務所内

和田 安喜

二、1 恩給種類 文遣

2 證書番號 ハ第一七五一〇號

3 年 額 金參百四圓

4 氏 名 鼎司妻 原上ヒサ

5 現在殘債金 貳千參百六拾六圓

貳拾六錢

6 再交付年月日 昭和十二年後半期

ナラン

再交付運動者 和田安喜

小樽市花園町西二ノ十三

債權者 佐野 吾市

一、1 恩給種類 海軍

2 證書番號 ト第一三一八號

3 年 額 金貳百參拾六圓

4 氏 名 阿部一三

5 現在殘債金 千七百六拾參圓貳

拾錢

6 再交付年月日 昭和十一年十一月

頃

再交付ノ運動者 和田安喜

小樽市花園町西三ノ十一

債權者 小黑 喜藏

一、1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 ニ第二四八八〇號

3 年 額 金貳百九拾貳圓

4 氏 名 高橋徳之進

5 現在殘債金 參千百九拾五圓七

錢

6 昭和十一年中 再交付

僧侶トナリ改名シタル理由トス

旭川市新谷、四方、田村高橋辯

護士等新證書ニテ玉置ヨリ借入

レシ際關係者一同分配ノ由

再交付ノ新證書ニテ借入先

昭和十一年中旭川市二條通二丁

目玉置菓子店

大阪市東淀川區本庄西通一丁目

一八 債權者 鈴木 重吉

1 恩給種類 陸軍

2 證書番號 ホ第一三二〇八號

3 年 額 普百六拾五圓

增參百七拾五圓

4 氏 名 桂光郎

5 現在殘債金 壹千七百貳拾五圓

6 再交付年月日 昭和十三年二月上

旬(推定)

京城府新堂町三六一櫻ヶ丘

債權者 西村 元

一、1 恩給種類 警職

2 證書番號 朝カワ第七五四號

3 年 額 三百八圓

4氏 名 新納七太郎

昭和九年十月後ヨリ支給停止セリ現在再交付ヲ受ケ他ヨリ立替ヲ受ケ居レリ

京都市中京區柳馬場通三條下ル
九八

債權者 千葉豊三郎

一、1 恩給種類 海軍

2 證書番號 ト第四九一一號

3 年 額 千百九拾壹圓也

4氏 名 遠藤 博明

5 現在殘債金 四千九百八拾七圓

6 再交付月日 不明

二、三金融ノ申込ヲナセル風評ヲ知ル

二、1 恩給種類 海軍

2 證書番號 ト第三〇五八八號

3 年 額 貳百參拾九圓

4氏 名 四方要三郎

5 現在殘債 八百九拾五圓

6 再交付月日 昭和十二年十一月

三十日

他ニテ借款セル様ナルモ不詳

三、1 恩給種類 警職

2 證書番號 カ第一〇八五六號

3 年 額 參百七拾圓

4氏 名 西野 次義

5 現在殘債 千六百九拾參圓四拾四錢

6 再交付月日 不詳

債權者 平塚 永吉

再交付受ケタル者 森本 信三

昭和十二年十二月末日調、森本信三分計算書

一、金壹、七〇〇圓〇〇錢

昭和十二年四月十九日附（四月渡

分本人ニ於テ受領）

貸付元金額

一、壹五三圓〇〇

自十二年四月至同年十二月利子

（月一分ノ割）

内

一、金六八圓〇〇、利子内入金

（十二年七月渡分金百拾五圓中保

險料四拾七圓引キタル殘金）

差引金壹、七八五圓〇〇錢

岐阜縣笠松町

債權者 青木 良作

海軍 ト第九五七七號

年 額 金貳百參拾九圓也

氏 名 四方要三郎

再交付ノ新證書ニテ立替タル分

〔高橋委員演說參照〕

三、金利別貸付件數及金額

利 率	件 數	金 額	利率別 組合數
一割ヲ超ユル モノ	一五	一、九三六	一六
九分六厘以上	六六	七、三三五	二
九分一厘以上	二二	三、〇五八	一五
八分六厘以上	八六	九、四八七	三
八分一厘以上	八八	一、〇七五	三
七分六厘以上	三三	五、六二七	五
七分一厘以上	七九	一、三六四	三
六分六厘以上	六三	三、四二三	四
六分一厘以上	六七	四、七三九	一六
五分一厘以上	三	二、六三五	一六
四分以上	三	八、八六三	四
合 計	四、四三五	一、〇六四	三、六

昭和十三年三月一日印刷

昭和十三年三月二日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局